

(仮称) 希望丘青少年交流センター
運営のあり方検討委員会 報告書

平成 2 9 年 7 月

目次

1	はじめに	1
2	検討にあたって	
(1)	青少年交流センターについて	2
(2)	これまでの検討経過	4
(3)	(仮称)希望丘青少年交流センター運営のあり方検討委員会の設置	5
(4)	検討にあたってのテーマ	6
	コラム1 青少年検討部会が、コンセプトキーワードを考えてみました!	7
	青少年交流センター全体図	8
3	運営のあり方について	
(1)	青少年が主体となれる場：どんな若者が利用する?	9
(2)	どんな場であるべきか? 結果的に多世代で交流できる場となるように 自己形成の場であること	11
	多世代交流の場であること	13
(3)	多目的に利用できる場：若者が利用しやすい魅力的な場とは? 若者が自由に施設を利用できること	15
	一般の人と一緒に使うには?	17
	行きたいとき、居たいときに開いている場： 開館日及び開館時間はどうありたい?	18
(4)	どんなプロジェクトができる?	19
	コラム2 センターで実施するプロジェクトをイメージしてみると...	21
(5)	地域や大人とのつながり	22
(6)	どのように運営していくか 若者や地域の意見を反映する体制づくり	24
	専門的な相談支援機関との連携	27
	センターに必要な職員とはどんな人?	28
4	終わりに	30
資料1	(仮称)希望丘青少年交流センター運営のあり方検討委員会 名簿	31
資料2	(仮称)希望丘青少年交流センターに関するアンケート調査結果	32

1 はじめに

世田谷区はかねて若者の主体性を大切にして、子どもや若者の参画推進に取り組んできました。地域には若者を見守る居場所やたくさんの寄り添う大人がいて、学校や家庭にいつらい時もある、思春期から青年期の年ごろの子たちが大きく道はずれないで、育っていくサポート体制があちこちにあります。

居場所は、児童館、プレーパーク、大学連携による若者の身近な居場所「あいらす」「たからばこ」、その他たくさんのNPO活動などの市民活動団体があり、さまざまな個性を持った子どもたち、若者たちがそれぞれに居場所を見つけられるよう心を配る人たちがたくさんいます。

旧希望丘中学校周辺にもそうした活動の一つである「子どもぶんか村」があります。地域の人々が先生となり、仲間となって、子どもたち、若者たちと楽しい活動と一緒に取り組むための仕組みであり、プログラムの豊かさや開催時期の多様さは、他地域には類をみないほど盛んな取り組みとなっています。

そうした地域的な背景のある場所に、(仮称)希望丘青少年交流センターがつくられることになりました。若者の思い、地域の住民の思い、地域の学校の思い、支える区の職員の思いがタッグを組んで、地域特性を活かした、多くの若者や地域の人にとって居心地の良い、創造性あふれる活動が展開できる場とすることが望まれています。

すでに世田谷区には青少年交流センターが2カ所設置されています。広い世田谷区に3カ所では少ないですが、それぞれが地域の特徴を活かし、運営する人たちの思いを反映し、集う若者たちの居場所となるような運営の仕方がなされています。

それ以外にも、平成25年6月～26年2月には、千歳烏山駅前にオルパという若者の居場所が展開されていました。ここは担い手となった若者たちの意欲と活動に支えられた、文字通り若者参画による施設運営がなされ、多くの担い手を呼び寄せ、居場所を求める中高生が居着き、地域の人からも愛された、いわば若者の拠点のモデルのような場でありました。

残念ながら期限付きの展開でしたが、関わった若者たちは大きな経験を得て、そこを巣立ち、それぞれの新しい活動や職場や居場所に巣立ちました。他の若者交流施設職員になった若者もいます。また利用者の中にはそこでの参画体験が大きな糧となってその後の進路選択にも影響を及ぼしています。

真の参画は、「ここは意見を言える場であり、意見が反映される場である」という安心と信頼が得られたときに初めて実現します。

若者の主体性や参画を大切に思う大人と、参画体験の重要性を認識した若者の協働としてのプロジェクトがこのあり方検討委員会です。

2 検討にあたって

(1) 青少年交流センターについて

世田谷区は、世田谷区立青少年交流センター条例の設置趣旨に「青少年の健全な育成を図るとともに、青少年の社会的自立を総合的に支援し、活力ある地域社会を実現する」と規定しています。

センターに共通する主な事業内容は、「主体的な活動を通じた学びと成長、多世代交流の推進に向けた支援事業」「地域行事への参加促進事業や社会体験事業」となっています。

青少年交流センターを利用する若者は、さまざまな目的で施設空間を活用する中で、多様なグループや個人との関係を築き、社会につながる活動を展開することができます。

ところで、世田谷区の小中学生への調査では、年齢を重ねるとともに自己肯定感が下がり、中学生の7割近くが、「自分のことはあまり好きではないし、他の人からも必要とされてない」と感じているという結果があります。

肯定的な自己形成、すなわち自己肯定感や主体性の高まりは、存在をお互いに認めあう「他者の承認」にもつながり、ひいては「相互承認」を生み出します。昨今は、若者は成長の過程で自分の意見を述べ、自分から主体的に行動を起こすことで「環境が改善する」という経験をあまり持っていません。そうした背景もあり、自己肯定感や自己有用感の低さにつながっていると考えられます。

子どもも若者も成長する力を内に秘めています。それを引き出す地域の拠点として青少年交流センターがあり、「主体的な活動を通じた学びと成長、多世代交流の推進に向けた支援事業」「地域行事への参加促進事業や社会体験事業」等の実施を通して、その役割を果たしていくことが期待されています。

青少年交流センターでは、同世代はもとより世代を超えて多様な人々と出会い、交流し、多くの仲間と協働してつくりあげるプロセスや、試行錯誤を繰り返しながら積み上げていく体験をすることができます。こうした体験を通して、若者たちは、生きる力^{*}やレジリエンス^{**}を育み、自らの人生を切り開き、さまざまな場に巣立つ土台になると考えています。

* : 1996年中央教育審議会が問題解決能力、自制心、協調性、思いやり、豊かな人間性等の全人的な資質や能力をさす言葉として用いた。

* * : 逆境を乗り越える力や回復力を指す心理学的な用語。レジリエンスとも言う。

【参考】

既存2つの青少年交流センターの概要

	池之上青少年会館	野毛青少年交流センター
特色	地域から愛され若者が主体的に活動できる場	若者たちの「やってみたい！」を応援するベースキャンプ」
	協議会等、地域住民との密接なつながりを生かしながら、社会教育施設として築いてきた実績や学校等とのネットワークをベースに、新たな取り組みの強化充実を図る。児童館（中高生支援館）や青少年交流センターによる支援機能の取りまとめ等を担う中核施設として位置づけられる。	豊かな自然環境の中にある静かな立地や多機能な施設特性を活かし、本格的なものづくり体験事業や、「メルクマールせたがや」と連携したひきこもり等の若者に対する自立支援プログラム事業を実施する。地域活動団体等との連携を通じて、子ども・若者の学びや多世代交流の推進につながる広域的な交流施設として位置づけられる。
運営形態	直営	委託
	協議会 運営委員会	居場所づくりボランティア 運営補助ボランティア 運営委員会
休館日	年末年始 8月を除く第2月曜日	年末年始 祝日を除く月曜日
利用時間	午前9時～午後10時 小学生は午後5時、中学生は午後7時まで	午前9時～午後9時

(2) これまでの検討経過

平成26年2月に策定された「旧希望丘中学校跡地活用方針」において、地域の要望を受け「青少年の活動の場や学習室等の整備を図るとともに、青少年が地域の多世代と交流し、さまざまな体験や自己実現を通じて次代の担い手として成長する拠点として、複合施設の中に青少年交流センターを整備する」という方針が示されました。

その後、平成27年3月策定の「複合施設基本構想」において、青少年交流センターの整備にかかる理念として、以下2点が示されました。

多世代と交流できる施設づくり

次代の担い手として成長する拠点づくり

また、複合施設基本構想の策定期間と並行して、「希望丘青少年交流センター青少年建設構想委員会」が設置され、当事者である若者の声が基本設計に反映されました。その際、メンバーは開設後の利用しやすさ、運用のしやすさを重要視し、以下のような視点に立って、施設づくりにあたってのコンセプトをまとめていきました。

青少年が主体となれる場

青少年運営委員会を中心とした運営形態にしたい。さらに、青少年を支える役割を大学生ボランティアに担ってもらいたい。さらに、継続的に見守る目としての役割は地域の大人のボランティアと職員の役割と考える。職員はできるだけ異動が少なく、また地域の大人は長期的に関わってもらえる存在です。

多目的に活用しやすい場

やりたいときにやりたいことが出来る運用が一番大切です。自由に活用できる柔軟な環境をつくりたいという意見で一致しました。利用しやすさは予約の取り方、フリースペース、オープンスペースのあり方で決まってくると思います。外部とのつながりも持ちやすい場としたいです。つながりはオンラインのものに加え、もちろんひと主体のつながりも含みます。

多世代で交流できる場

青少年交流センターのみならず全館で継続的な交流をするイメージを持っています。全館運営委員会などによって意見や情報の交換を行ない、青少年企画のイベントで挑戦・自発性を、定期的なイベントではきっかけづくりを、また青少年交流センターのビジョンを地域にアピールしていくイベントもしかけていきたいです。

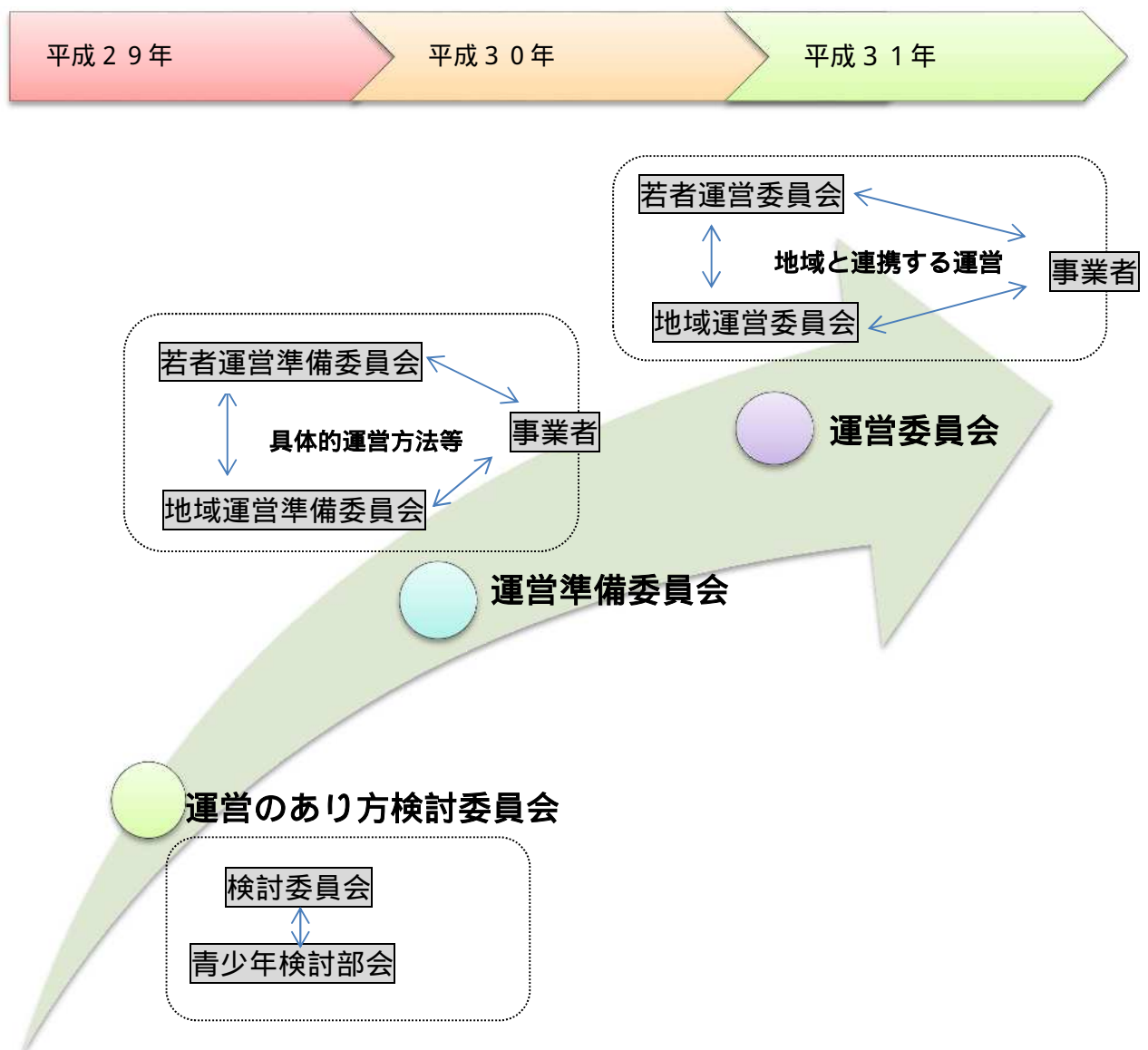
(3)(仮称)希望丘青少年交流センター運営のあり方検討委員会の設置

平成26年当初より、区は、希望丘の青少年交流センターは、これまでの地域からの要望、地域特性を踏まえ、あり方を検討していくこととしていました。特にその運営のあり方については、開館後の円滑な運営のためにも、若者や地域住民とともに検討していくことが重視されていました。

こうしたことを踏まえ、中高生や大学生世代にとって利用しやすく、かつ地域社会全体で青少年の育ちを見守り、対等に意見交換しながら協働していくための拠点としての役割を担うための運営のあり方を検討する「(仮称)希望丘青少年交流センター運営のあり方検討委員会」が設置されました。

本検討委員会は、学識経験者、青少年委員のほか、青少年地区委員、民生・児童委員、町会自治会、商店街など、希望丘の地域住民も含めた各代表20名のほか、若者の視点からの意見を取り入れるため、公募の高校・大学生世代など12名の青少年検討部会で構成し、相互の意見交換をしながら並行して検討を進めました。

なお、本検討委員会は、平成30年以降は運営事業者とともに事業計画等を策定する運営準備委員会に、センターが開設する平成31年以降は運営委員会に、発展的に移行することが予定されています。



(4) 検討にあたってのテーマ

これまでの検討過程で、前述したように 青少年が主体となれる場、 多目的に活用しやすい場、 多世代で交流できる場という3つのコンセプトが提示されています。

本検討委員会では青少年交流センターの役割を踏まえ、以下4つのテーマについて、運営のあり方（運営方法や運営体制）を検討しました。

- 若者が主体性を発揮できる場
- 若者が多世代と交流できる場
- 社会・地域の担い手としての若者の学びや成長を支える場
- 地域とともに若者を支え育てる場

【本検討委員会の開催日程】

	検討委員会	青少年検討部会
1月	第1回(31日)	
2月		第1回(14日)
3月	第2回(16日)	第2回(15日)
4月	第3回(24日)	第3回(17日)
5月	第4回(30日)	第4回(10日) 第5回(24日)
6月	第5回(27日)	第6回(5日) 第7回(12日) 第8回(19日)

青少年検討部会が、コンセプトキーワードを考えてみました！

(仮称)希望丘青少年交流センターを利用者と共通するイメージをつくり、意見を出しやすくするため、キーワードからコンセプト案を考えました。特徴的なこと、大切にしたいことは「多世代交流」と「若者主体」「地域」であることから、すべての要素に当てはめられ、誰もがイメージしやすい身近な言葉に落とし込みました。

多世代交流

虹（多様な人、多世代、性格なども違うため十人十色、目立ちたい人・目立ちたくない人の両方に利用してほしい）

若者主体・地域

舟（自由な方向性、自力で発進させる）

パーク（色々な過ごし方、自主的な遊び、活発な感じ、地域・身近にある）



センター全体のコンセプトキーワード

虹色の舟

虹色パーク

今後、こうしたコンセプトキーワードを正式に決めていくこととなりますが、例えば「虹色」というキーワードを使った場合、利用者、スタッフ、ボランティア等が、虹色のいずれかの色のバッジを身につけることで、誰がどのような役割でセンターに関わっているのか一目で分かるようにしたり、「虹フェス」「虹色キャンプ」などイベントに冠名をつけ統一感を持たせたり、イベントの企画運営に携わる人たちがスタッフTシャツを身につけて一体感を高めたり、といった活用方法を検討されていくことを望みます。

【参考】スタッフTシャツのイメージ



Tシャツデザイン 加藤みわ

青少年交流センター全体図

上側の体育施設は、青少年交流センターとは別施設



3 運営のあり方について

(1) 青少年が主体となれる場：どんな若者が利用する？

利用者の中心は中高生世代以降の若者

青少年交流センターの利用者の中心は若者です。

多様な特徴や特性を持った若者が、自由にのびのびと利用することが最も重要な要件です。現代の若者は、日常生活の中では、親や先生以外の大人と出会うことが少なく、いろいろな仲間とつるんで遊ぶ時間も空間も限られており、意見を述べて、大人と対等にやりとりして地域で関わる活動をする機会が減ってしまっています。

そうした出会いや活動を通して、認められた経験や話を聞いてもらったり、共感してもらった経験や、ともに創り出す経験が得られなくなっているのです。

そのため自然に育まれていた自己肯定感や自己有用感が低いままで、「自分はここにいていいのか」と言った居心地の悪さや孤独感を感じている若者が増えていることが指摘されています。

若者が中心となって運営し、のびのび、自由に利用する青少年交流センターができることで、「居場所」や「信頼できる大人」との出会いを実現していくことができます。

青少年交流センターを利用する若者は、たとえば次のような若者たちです。

- ・ 居場所や地域と関わる機会が十分でなく、交流や活動の場が限られている若者
- ・ 地域との関わり、他の世代との関わりが希薄になりがちな若者
- ・ 目的や課題を問わず「とりあえず来る」若者
- ・ 目的を見いだせず迷い立ち止まっている若者
- ・ 障害がある若者
- ・ 不登校・ひきこもり気味で社会とのつながりを持ちにくい若者

【検討と意見】

若者 大人

交流、人と関わりたい若者

友達を増やしたい。

理由：学校外の仲間がほしい。皆といれば楽しい。

一人でいるのはさみしい。

理由：夜、家に誰もいない時、一人でごはんを食べるのはさみしい。
時間をつぶしたい、放課後ヒマ、たむろしたい。

理由：行けばいつも誰かがいる。

近くに集まれる場所があまりない。

ファミリーレストランやファストフードはお金がかかる。

人が集まる場所に行き、そこで一人でいたい。

社会人、学校の先生、子ども等、多世代と交流したい。

理由：さまざまな人と出会い交流することで成長したい。

上の世代に仕事のことや人生のこと、学校ではどうだったか...などを聞きたい。

中学生なら高校生世代、高校生世代なら大学生世代、大学生世代なら社会人の、ちょっと未来の話を知りたい。

活動したい若者

料理、スポーツ、伝統的な遊びなど「個人」でできないことをしたい。

理由：純粋に楽しい。

個で抱えていることを集団で実現させるのは自信につながる。

イベントを企画したいとか自分の熱を発散するには一人では無理自習したい。

理由：家だと結局何もせずだらけてしまう。

独学の人には学習できる場が少なく、あっても使いにくい環境だと思う。地域を活性化したい。

理由：活躍したい若者や目立ちたい若者がその機会をつくれたら面白い。

そういう若者が集まったら、職員や地域の方も全力で関わってほしい。

相談したい若者

親や友達には話しづらい。経験値の高い人の話やアドバイスが聞きたい。

理由：ただ話を聞いてもらえる場があるだけで心強いし安心できる。

自分を認めてくれたり、求めてくれる人がいると自信が持てる。

自信をもらう人にも与える人にもなりたい。

新たな自分発見！誰かに肯定されたい。

子育て支援が必要な若くして親となった若者

生きづらさを抱えた若者

不登校・ひきこもり気味の若者も、時間や場所を工夫することで対応できる。

理由：問題を抱えている若者や障害を持っている若者も自然に受け入れ、混じり合い一緒に育っていくことが自信や成長につながり意欲にもなる。

18歳以上の若者

社会に出たけど居場所がほしい。

社会経験を積む場、社会人との交流の場、お兄さんたちの憩いの場にしたい。大学生世代は居場所がないと感じる。

センターが参画してほしい若者像

仲間とともに地域で役割を果たしたい気持ちのある若者

学校と地域をつなぐ仲介者としての若者

多世代交流のハブとなる場をファシリテートしてくれる若者

ピアサポートできる若者

創る側の若者（熱量がある人）

(2) どんな場であるべきか？ 結果的に多世代で交流できる場となるように自己形成の場であること

誰もがいつでも自由に気軽に、目的を問わずふらっと立ち寄れる原っぱのような場
多様な人と関わる中で、地域社会で交流・活動するイメージを持ち、広げていくことができる場

安心して過ごすことができる場を得ることで、若者たちは心の安定や余裕を得て、主体的に行動する意欲を強く持てるようになると考えられます。このような場は自己形成空間と呼ばれます*。

こうした場を得ることで、若者たちは仲間と協力しながら試行錯誤を繰り返して、失敗も経験する中で、自分たちの計画を実現していく行動力を発揮できるようになります。

一方で、仲間や大人からの働きかけに、自由に気軽に参加すること、そして参加しないことも尊重される場であることが大切です。

- ・ 目的や課題を問わず「とりあえず面白そうだから行ってみることに拒否されず、誰もが受け入れられる場
- ・ 排除の論理を排除し、ここには、いつでも誰でも来てよいのだと感じさせる場
- ・ 特に予定ややりたいことが無く、ふらっと立ち寄ったときにも、ありのままの自分を認められる場
- ・ 親や友達には話しにくいことでも、信頼できる人にただ話を聞いてもらうだけでも安心でき、心強く思う場
- ・ 参加することと同様参加しないことも尊重される場

* 自己形成空間：高橋勝氏の提唱した概念。「子ども・若者の自己形成空間」
東信堂

【検討と意見】

若者 大人

どんな場にしたい？

そもそも「どんな場」って特定したくないかなあ～

理由：決められた範囲外の人に来づらくなる。

色々な人がいると学べることも沢山あると思う。

“誰かがいる”という安心感がほしい。

若者が主体性を発揮できる場であると同様に、主体性がない人も参加できるようにしたい。

施設を初めて利用する若者も来やすい場

ターゲットを絞るのは無理があるためどんな若者でも利用できる場

排除の論理を排除してほしい。「誰に来て欲しい」ではなく、「ここに来てはいけないということの規定しない心持ち」をもってほしい。

「目的を持って来る青年」と「無目的だけれども面白そうだから来る青年」の両方がいて良いと思う。無目的の子どもたちが魅力を感じて来てくれるのが大事。

より多くの若者をひきつけるために必要な場って？

純粹に楽しい場

午後6時以降も安心して集まり、活動できる場

若者が「今の社会を担う」ことを経験できる場

学校での居場所が保健室や図書室である若者も利用しやすい雰囲気

新たな自分を発見できる場

個人でできないことを実現できる場

理由：皆で実現させるのは自信につながる。

大人からの過剰な干渉がなく、失敗することやハプニングを許容できる場

「何かに出会える予感」「新しい仲間に出会える予感」「広く世界に開かれる予感」

など、若者に限らず大人たちもワクワクしながら関われる場

さまざまな若者が自然に受け入れられ、出会い、知り合い、やがて協働する中でいつのまにか多世代交流ができる場

もともと地域社会で子どもたちも若者たちも、さまざまな年代のさまざまな人と関わったり、つながりをつくったりしながら、育ち、成熟していくものでした。しかし現代の多くの地域では、家族や社会や生活様式の変化により、なかなか世代を超えた多様な人々との出会いや交流が得難くなっており、そうした経験が乏しい若者が多く存在しています。青少年交流センターは地域における多世代の出会いと交流の拠点となることが期待されています。

多世代交流について検討した際に、若者の意見として、「年上の世代に仕事のことや人生のこと、学校ではどうだったかを聞いてみたい」「中学生なら高校生世代、大学生世代なら社会人など、少し未来の話を知りたい」などが挙げられました。

青少年交流センターでは、多世代交流を大々的に掲げるよりは、構えないで自然に、多様な人々との出会いや交流の喜びを実感することができるような場づくりを進めることが求められています。やがては地域に貢献したいという若者が現れることも理想の姿のひとつです。

青少年交流センターが入る複合施設は、隣に高齢者の特別養護老人ホーム、複合施設内には保育園ほか4つの機能が入る施設です。文字通り多世代が集う場となりますので、各施設間の往来を活発にする仕組みをつくるのが大切です。妊娠中から青年期まで切れ目のない支援の一端を担う場となることが望まれます。

- ・多様な人と出会い、関わり、協働できる場
- ・活動の中で自然に交流できる場
- ・隣接する他施設と活発に往来し、やりとりできる場

【検討と意見】

若者 大人

どんな場にしたい？

社会人、学校の先生、子ども等、多世代と交流したい。

理由：さまざまな人と出会い交流することで成長したい。

上の世代に仕事のことや人生のこと、学校ではどうだったか...などを聞きたい。

中学生なら高校生世代、高校生世代なら大学生世代、大学生世代なら社会人の、ちょっと未来の話を知りたい。

多様な考え方、生き方をしている地域の人に相談したい。

多様な体験で多様な立場の人と出会うことで、自分は自分で良いんだという感覚を持つことができる。

多世代交流を看板に掲げ意図的に組み込みすぎると若者が構えてしまい、上手くいかない。運営する側が多世代交流の大切さをしっかりと意識しながら、自然な形で人と人をつなげ、利用者が気づいたら交じり合う喜びを感じているという、さりげない仕掛けが必要である。

多世代との交流は結果なので、人選はちゃんとした上でお手伝い(半分スタッフ)のような役割を持ってもらう。

こんな多世代交流ができればいいな

別々に音楽スタジオを利用していた高齢者と若者が、日常の交流から一緒にバンドをやれるようになると面白い。

調理室を使って一緒にご飯を食べるなどすると、自然に多世代交流が広がっていく。

例：バレンタインのチョコレートづくりを主婦の方と一緒にやる等

子どもを連れた大人に料理を教わりたい。

裁縫などを教えてもらいたい。

デッキで隣の高齢者施設のおじいちゃんやおばあちゃんと一緒に家庭菜園をしたい。

(3) 多目的に利用できる場：若者が利用しやすい魅力的な場とは？

若者が自由に施設を利用できること

若者が自由に活用でき、若者の柔軟な発想にあわせ、やりたいことを実現できる利用環境がある場

センターでは、若者がやりたいことを発想・実行する場、そしてそれを発信する場として機能できる環境を整えていく必要があります。学校ではどうしても「評価」されてしまいますが、この場ではありのまま、のびのびと過ごすことができます。まるで社会の隙間のような場になることが望まれます。

できる限り、ルールは若者が合議して提案し、大人との合意形成の上で決定していく必要があります。

運営者は、若者の提案や実践については、すぐに制限や禁止をするのではなく、若者のユニークな意見については早急に意義や目的を問うのではなく、柔軟に受け止め、発想の背景に共感する姿勢を持って、環境を整えていくことが必要です。

- ・できる限り若者がいつでも予約して使えることを優先し、利用ルールが決められている場
- ・若者の中にもさまざまな特性を持った人がいるので、ひとりひとりが尊重されるルールがある場
- ・わかりやすい意義や目的以外にも、若者らしいユニークさを大事にする視点に立って、柔軟な利用をサポートしてもらえる場

利用区分のイメージ

【いつでも自由に使える部屋・場所】

多目的利用室、ホール、交流スペース、学習室、ラウンジ

【予約して使う部屋・場所】

会議室、調理室、音楽スタジオ

【運営者が管理する部屋・場所】

相談コーナー、カフェキッチン

- ・web 予約ができる場
- ・直前でも空いていれば利用できる場
- ・掲示板などでどのような仲間が施設利用しているかを見ることができる工夫のある場
- ・地域住民等による貸し出し受付担当の大人と直接やりとりして活動の意義や意図を伝えるチャンスもある場

【若者より】

ちょっとした工夫・チェックポイント！

多目的利用室

- ・こもることができるテントがあると面白い。
- ・書籍や漫画を置いてほしい。

ラウンジルーム

- ・カップ麺等の食べ残しや飲み残し等を捨てられる排水溝などは必要。

ホール

トランポリン等、家には無いサイズ感の道具を使って遊びたい。

天井に音響照明器具が設置されているのでダイナミックな球技はできないかもしれないが、もう少し軽運動できるよう工夫されるといい。

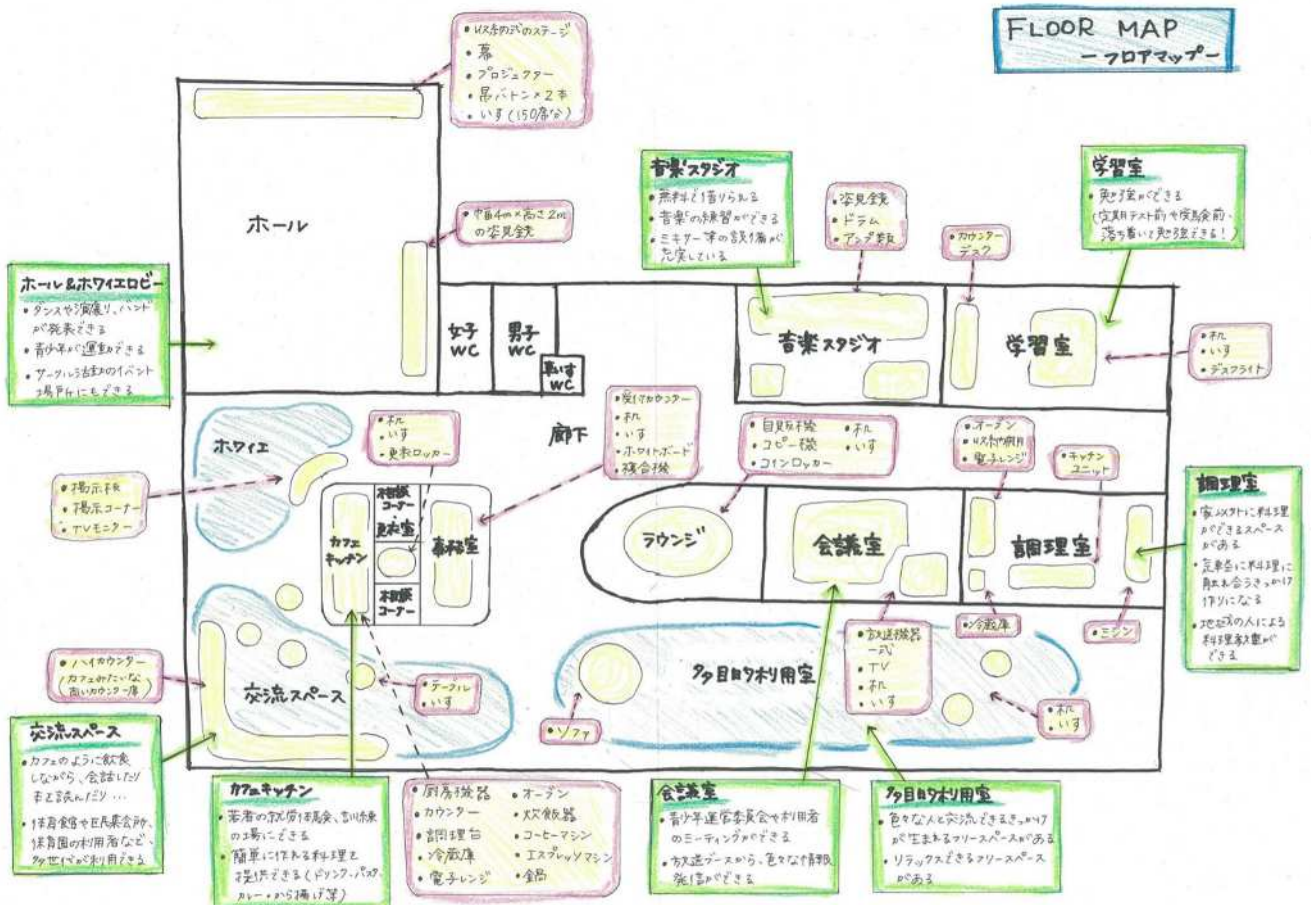
ホワイエロビー・交流スペース

思っていることを気軽に発信できる、例えば「掲示板」があるといい。

めんどくさい「手続き」がない

面倒な手続きがあると、それだけで行くハードルが上がる。思いついたときにすぐ何かできる状況がよい。ネット上で予約できたら便利。ただ、直接顔を見ることによりできる信頼関係もある。

直前にスマホでも予約の変更、確認ができる。今はこれが大事ですね。



一般の人と一緒に使うには？

大人（地域住民や一般利用者）が若者とともに過ごせる場

青少年交流センターは地域の大切な拠点です。地域や一般の大人も利用して、拠点での活動を通して楽しい経験が得られる場となることで、世代を超えた多様な人々と若者との自然な出会いや交流のきっかけづくりにもなります。

若者の活動に直接あるいは間接的に触れる機会が多くなれば、大人の若者に対する理解が深まり、若者との協働や活動の見守りの協力者の拡大にもつながるでしょう。

そのためにも、青少年交流センターの基盤となる「地域の中で若者世代が心置きなく集まりのびのびと利用することができる」拠点としての意義を共通の認識とすることが大切です。その上で、大人や小学生以下の子どもたちの利用について、丁寧に検討し、それぞれの立場を尊重して合意を形成できるような、わかりやすいルールを設ける必要があります。

- ・ 一般利用と若者利用の場の時間的、空間的な住み分け（たとえば、色による区分けのような柔らかい境界線）ができている場
- ・ ちょっとした打ち合わせや簡単な飲食ができる場
- ・ 一般利用も予約なくできる部屋がある場

【検討と意見】

若者 大人

センターを大人に開放してもいいの？

施設が空いているからといって大人が無条件に開放した結果、若者の使い勝手が悪くならないように、ある程度のルールを設ける必要がある。

地域の大人や高齢者たちは新しく施設ができると使いたくなる。利用できる施設がないか目を皿のようにして見ている方もいらっしゃる。一般利用のルールを規定しないと通用しない。

一般の方が学校のある時間帯に利用したとき、学校に行けない若者がセンターにいると「学校に行かずにここで何してるの？」と言うかもしれない。

一方で、学校に行けない若者は、自分に注目が集まることを避け、大勢が集まる場所の中で紛れていたいという心理が働くこともある。

そうした若者も、一般の方と交流することが自信や成長につながり、意欲も出てくる。いろんな人が集まることも必要で、極端に分けすぎなくていい。

大人が若者とよい関係で使うには？

スペースとして、いろんな人がいる場所と若者だけの場所があるといい。

一般利用と若者利用の場の時間的、空間的な住み分けができるといいのでは？壁のような遮断する仕切りではなく、床や天井の色で空間的な仕切りにすると、目の行き届いた安心できる場所になるとともに、お互いを気にかける環境から交流も生まれるのではないかな。

複合施設内には、ちょっとした打ち合わせや簡単に飲食ができる場がないため、一般の方が予約なく活用できる利用し交流できるスペースを1か所設けておく。

ルールづくりにあたっては、若者の意見を聞きながら規則的なものを考えていく。

行きたいとき、居たいときに開いている場：

開館日及び開館時間はどうか？

さまざまな状況にある若者が必要なときに利用でき、また、若者と多様な人が交流し、つながる機会ができるだけたくさんつくれる場（多くの開館日・長い開館時間）

活発に活動する場や仲間を求めて来館する若者以外にも、青少年交流センターを居場所として必要としている若者がいます。

学校にも家庭にも居場所がなく、学校の友達や家族には悩みや思いを話せない若者がふらりと立ち寄り、心置きなく過ごせ、また深刻な悩みで困っているときにはSOSを出せる場として機能する必要があります。

行きたいと思ったときに立ち寄れるように、できるだけ開館日を多くし、また開館時間も長くすることが望まれます。

- ・行きたいときにふらっと立ち寄れるようにできるだけ多くの開館日がある場
- ・困った時、必要なときに駆け込めるように開館時間が長く設定されている場

【検討と意見】

若者 大人

多様な若者の活動時間帯

18時以降集まれる場が少ない。

平日、学校に行けない若者が利用しやすい場づくりが必要。

遅くまでいれた方がよい。例えば、時間で区切って22時まで開ける。（塾が終わった後にふらっと寄れる場所があるといいな）

バンドができる場や交流の場は、遅ければ遅いほど楽しくなる。夜に集まり活動したいという声があると思う。

(4) どんなプロジェクトができる？

若者が自ら考え、計画し、実現のために行動し、試行錯誤しながら実現するプロジェクト

センターの利用に慣れた頃に、何かやってみたいと思っている若者が参加できるようなプロジェクト

センターの設置趣旨やコンセプト等を踏まえ、若者が自主的に企画するプロジェクトを実施していくことが最優先されます。アイデアの練り上げから、素材集め、仲間づくり、協力者づくり、からはじめ、計画を実行に移した後は、振り返りを経て、改善点を見出し、さらにその後に新たな展開をするといった一連のプロセスが想定されます。

世田谷には多様なワザや技術をもったすばらしい人材がたくさんいます。そうした地域の人材は「社会資源」と呼ばれますが、青少年交流センターの利用者や周辺に居住する、そうした「社会資源」を活かすと、ユニークなプロジェクトを展開することができるでしょう。

具体的には次のようなプログラムが考えられます。

- ・ 社会資源を活用し、地域人材と協働することで社会で働くイメージを持てるようなプログラム
- ・ 今まで参画した経験がなくても、興味関心を持って、初参加する人にとって敷居やハードルの低いプログラム
- ・ 配慮を必要とする若者が簡単な活動を通して就労体験を得られるようなプログラム
- ・ 青少年交流センターの大人の担い手たちとともに関わる地域イベントと共催できるようなプログラム

【検討と意見】

若者 大人

青少年施設の活動から得た経験

若者も多くのことに関わりたい。例えば、中高生世代応援スペース「オルパ」では、一から何かをつくり上げる活動をしていて、それが良い経験になっている。これまでは、予めそれぞれ役割が決まっていることばかりだったが、初めて一からつくり上げることを経験した。とても難しかったけれど楽しくできた。この経験がなかったら地域の方と話す機会もなかった。

もっともっと具体的な例としては・・・

若者の運営委員会をつくり、企画運営を中心になって行うお祭りやイベント
大人（地域や職員）へ企画のプレゼンをする。

責任は、企画した若者と職員の双方が負う。何かがあったときに責任を取るまでが企画だと思う。しかし、若者だけが責任を負うことは負担が大きいため、安心できる後ろ盾となってくれる大人にいてほしい。運営後は、良くなかったところも自分たちで考える。

やりたいことを実現するための助成金獲得の取り組み
地域の方々に地域のことを教わることを通じて、若者が地域の方と一緒に実施できる自主企画プロジェクトを考える素材を提供する日や空間があるとよい。
センター内で通用する通貨をつくり、それを活用した活動や取り組み
利用者同士で宿題をやる会
キッチンカフェでアルバイト体験
若者が社会貢献（または地域貢献）に関わるプロジェクト
学習スペースでの異世代教え合いプログラム
仲間へのお悩み相談プログラム（ピア*・サポート・プログラム）
*ピアとは仲間のこと
アルバイト・マッチング相談プログラム（先輩が経験した「良いアルバイト」を紹介する）
若者が発意した企画（失敗もあり）を実現するため、担当が変わっても運営者が変わっても、継続的に毎年アイデアを実現できる仕組みづくりが必要となる。

[参考]

平成 26 年 9 月「世田谷区議会福祉保健常任委員会報告」より

区は「青少年交流センターで実施する事業」をこう考えていました。

子ども・若者の主体的な活動の場及び多世代交流の場の整備、運営
子ども・若者の主体的な学びと成長、多世代交流推進に向けた事業の実施
子ども・若者の地域行事への参加促進事業や社会体験事業の実施
子ども・若者の余暇活動や団体活動の支援
子ども・若者支援に向けた指導者の研修

[参考]

平成 26 年 7 月「野毛青少年交流センターの事業と機能の在り方をめぐる提言」より

- 社会につながるダイナミックで創造的なプロジェクトを展開する。 -

センターの施設・機能を活用し、腰を据えてじっくりと一つのプロジェクトに取り組める環境、子ども・若者自身の手で場を創造していける空間特性がセンターにはある。

その意味から、センターでは一過性のイベント的なプログラムだけでなく、ある程度長期間をかけ取り組み、子ども・若者が本物（人、モノ、場）に触れることのできる体験の場として、ダイナミックで創造的なプロジェクトを展開していくことが望ましい。例えばクリエイティブで多様な自己表現が可能なもの、若者の関心に寄り添った社会的課題をじっくり考えるものなどが考えられる。

センターで実施するプロジェクトをイメージしてみると・・・

欲しいものがあるなら、お金をつくり出すアイデアを考える大会



いい机、いい椅子、
DJ セット...

欲しいのは尽きないの
はわかります。

大人は、それを制限し
ません。

ただ、お金がかかるの
で、それを買うだけの
資金を調達できるアイ
ディアを募集します。

スポンサーへプレゼン
してもらおう実践教育で
す。

写真出典 <http://www.gatag.net/>

まち全体を巻き込みます！年に一度のオリジナル夏祭り！



実行委員会は大学や企業
から等さまざま。

ただ、旗振り役は、若者
運営委員会のメンバー。

実際に企業などからスポン
サーを募り、自分たち
で運営資金を賄います。

まちとの本気のコミュニ
ケーションが自己成長へ
とつなげてくれます。

* 提案・協力：新井佑委員

(5) 地域や大人とのつながり

地域の特徴である子どもや若者を支え、受け止めてくれる人たちとのつながりを大切にしていきます

船橋地区には、さまざまな地域イベントや子どもぶんか村があり、高校、中学校、小学校、そしてPTA、青少年地区委員、青少年委員など地域が丸となって若者を応援し、交流も盛んな地域です。

若者の主体的な活動や大人と対等に意見を取り交わしながらまちづくりに関わる基盤が、長い期間続いており地域に根付いています。

学校の先生や行政の職員は異動するといなくなってしまうますが、「地域の人はずっとそこにいて、何年経っても覚えていてくれる」「そういう大人がいるからいつでも戻れる」という気持ちを持つことができます。

- ・ 近隣で活発に地域活動をしている団体とつながります
- ・ 世田谷区内のさまざまな専門家や面白い大人とつながります

【検討と意見】

若者 大人

地域とつながるとどうなるの？

地域にはさまざまな考え方を持っている方がいて、交流によって多くの学びが得られる。

いろんな地域をまぜこぜにして、希望丘を中心に、人と人が交じり合う喜び、ざっくばらんな雰囲気の中から、高次な成長ができる場ができたらいい。

若者成長と自立を第一に考えた地域交流とは何かをしっかりと検討する必要がある。

地域の方々にはこんな関わり方をお願いしたい！

「地域に育てられる」のではなく、若者を見守りフォローしてもらいたい。若者と地域がともに成長したい。地域の人にも「盾になる大人」としていてほしい。

若者を支える立場でいてほしいが、深く干渉しすぎず、程よい距離感を保ちたい。

イベントなどの企画をするとなった時に、理解してくれると同時に、お客さんとして参加してもらったり、講師として参加してもらったりできるとありがたい。

例：子どもを連れて大人が中高生世代に料理を教える。

デッキで家庭菜園をし、おじいちゃんやおばあちゃんにお手伝いしてもらおう。

調理室を交流の場として活用する。例えば、バレンタインのチョコレートづくりを主婦の方と一緒にやる。裁縫などを教えてもらいたい。

サポーターやアドバイザーの人と若者をマッチングさせる機能が必要であるが、あまり制度化・見える化すると若者が構えてしまう。自然発生的な形がよい。

もっともっと具体的な例としては・・・

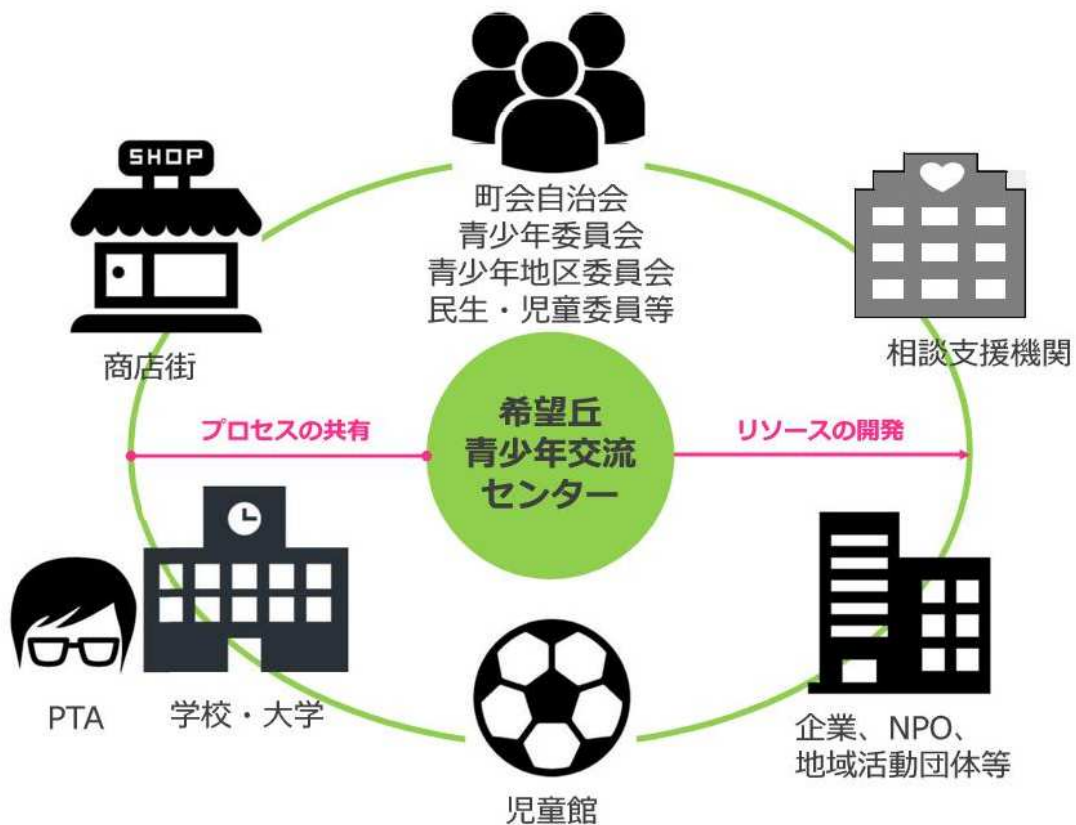
防災宿泊訓練が楽しかった記憶があるからまたやりたい。

利用者で複合施設内の掃除を手伝うなどの時間があつたらよい。

若者が地域で働ける仕組みづくり。地域で若者が働くようになればまちの活性化も図られ、お互いにとってよい。

不安な保護者がベテラン保護者へ相談する場、保護者の愚痴・相談会
利用した若者が結婚し、子どもを持っても、何かのカタチで関われるよい「循環」
が生まれるセンターになるとよい。

青少年交流センターを囲む地域コミュニティのイメージ



* 提案・協力：新井佑委員

【参考】

平成 27 年 3 月「子ども計画」より

- 地域や大人とのつながりに関する現状と課題 -

参加の機会や情報を得る機会が少なく、地域に関心を示さない若者や社会から孤立し悩んでいる若者も少なくない。

多様な地域住民と主体的に関わりを持ちながら、自主的に活動できる場所、地域の担い手となる若者の育成が求められている。

若者自身の主体的な活動を区民が見守り、支援する取り組みが必要

若者が地域活動団体と連携することにより、若者の持つ構想力や行動力、活動力が活性化し、例えば、地域の文化創造の拠点をつくりあげる、文化を継承する取り組みを行うといったことは、若者の地域活動や多世代交流をより活発化し、そのことが地域の活性化にもつながる。

(6) どのように運営していくか

若者や地域の意見を反映する体制づくり

若者にとって利用しやすく、かつ地域社会全体で若者を見守り支えるための拠点とする
運営委員会（開設までは運営準備委員会）等を設置し、事業者とともに、若者や地域の意見を直接運営に反映する仕組みとする

この場には、若者たちが、何か面白い活動をしたいと集まって来たり、居場所として気楽に出入りしたり、また悩みを受け止めてもらいたいと思って訪れるなど、さまざまな利用の仕方が想定されています。

場を運営する上では、若者、地域、事業者が協働し、体制の要は三者による運営委員会が担い、その委員会に、以下のような若者、地域による運営委員会と、事業者がそれぞれ、小委員会や下位機関として位置づけられるイメージです。

【若者運営委員会】

- ・運営のあり方検討委員会青少年検討部会の発展した形
- ・施設の運営管理について一定の権限を持って、改善活動や広報活動、イベントの企画などを行い、利用者である若者の生の声を素早く運営に反映していきます。
- ・大人の意見に従って活動するのではなく、計画段階から意見を反映させ、施設運営を担っていきます。

【地域運営委員会】

- ・運営のあり方検討委員会の発展した形
- ・プロジェクトやその中で展開されるプログラム内容、実現までの計画等について意見を述べ、適正な運営を図るために組織します。
- ・事業実施に際しては、地域の適切な人材や社会資源をセンターにつないだり、積極的に地域への広報活動を行ったりするなど、地域社会全体で若者の成長と自立を支えるための中核的な役割を担うことが期待されます。

【運営事業者】

- ・若者の成長や自立を支えるという理念と、地域の多様な人材や資源と協働する意義を理解し、両者とコミュニケーションできる事業者が望ましいと考えます。
- ・多様な特徴や特性を持った来館者を受け入れ、事業を安全かつ安定的に運営していくため、専門性を持ち、運営管理にかかる体制や実績が一定程度備わっていることが必要です。
- ・事業者は若者と地域の各運営委員会と協働して、センターの運営にあたることが大切です。

【運営に協力いただく地域の方々】

- ・事業者と一体となって、若者の育ちと成長を見守り、一部の運営管理の役割を担ってもらう人を想定しています。

- ・地域の実情をよく知り、若者と顔の見える関係を築き、時には悩みの聞き役となります。
- ・若者を応援する地域ネットワークづくりに地域運営委員会とともに貢献することが期待されます。

【大学生世代のボランティア】

- ・大学生世代は子どもと大人の間での存在（コトナ）として、身近な相談相手やサポーター、「こうなりたいなあ」というロールモデルの役割を担います。
- ・さまざまな機会を捉え地域との連携を深めます。例えば、以下のような会合を開催、または地域で行われる会合に参加することが望まれます。

- ・地域懇談会、若者相談支援機関との連携・連絡会
- ・複合施設全体の運営会議

【地域懇談会、若者支援関連機関との連携・連絡会】

- ・広く地域の方に呼びかけ参加してもらうことで、センターへの理解・協力と、さまざまな機会を通し地域との連携・交流を深めていくことができます。
- ・児童館、学校、専門的な相談支援機関等、他機関との連携・連絡会となるような場としても機能させることが求められます。

【複合施設全体の運営会議】

- ・積極的に参加し、各施設の職員と意見交換や情報共有を図るとともに、全館合同イベント（お祭り、避難所運営訓練）では中心的役割を担い、施設全体が、さまざまな世代が集まりつながりを深める契機をつくっていくことも求められます。

【検討と意見】

若者 大人

運営管理はどうしたらいい？

希望丘は大規模な施設。運営上のルールは必要

ルールや仕組みを厳密につくってしまうと、かえって若者が利用しにくくならないか。

若者たちは子どもと大人のあいだにいる「コトナ」といい、大人と子どものかけはしになりたいと考えたり動いたりしている。そういった若者たちのために地域全体で支える体制の構築を目指している。いいセンターをつくっていきいたい。

若者の委員会があって、地域の大人の委員会があって、運営事業者がどのような役割を担うのか、またそれぞれの関係性はどうかを検討していく必要がある。若者の意見が通りやすい体制の構築が必要

若者の検討委員会が中心となってセンターのルールを決める。センター長が変わると施設のルールが変わったりして、全体の空気まで変わってしまうことがある。常に若者の視点で使いやすいセンターを維持できるよう、若者にルールを決める一定の権限を与える必要がある。

若者に権限を持たされても若者だけで責任は負えない。責任の所在は大人と共有できるよう、決断の場にサポートする大人の存在が必要。
利用するときに、若者と一緒に大人も盛り上がりたい。大人も子どもも楽しい場所にしたいから、関わりの自由度がほしい。

広く若者の意見を吸い上げるには？

目安箱を設けて、青少年から大人へ向けた意見を拾う。生の声をすばやく反映できるシステムがあるとよい。

大学生世代のボランティアにはどんなことを期待する？

大学生世代のボランティアは利用者ぐらいの気持ちで協力するのがよいのでは。

若者支援施設との連携は？

児童館・センターのスタッフ同士の交流ができると、子どもたち・若者たちにとってもよい効果が出る。

センターは、思春期～青年期の葛藤や悩みを気楽に相談できる場
必要があれば、専門的な支援機関を紹介され、つないでもらえる場

- ・ 学校や家庭で、孤立したり、就職したもののうまく馴染めなかったりする若者たちがどうしたらよいかと迷う中で、ふらっと立ち寄ったり、居場所を求めて訪れることができる場であることが望まれます。
- ・ そのときに、ただ受容してもらって、休息をしたり、新しい出会いを経験して、元気を取り戻すこともあるでしょう。
- ・ 一方で、専門的な相談機関や支援機関とつながって、より適切な援助を早急に受ける必要がある場合も想定できます。
- ・ そのような場合には、危機介入が可能なスキルとキャリアのある専門的な職能者を擁する機関に紹介を受けて、すみやかに支援が開始される必要があります。

【検討と意見】

若者 大人

専門的な相談支援機関との連携は？

セーフティネットを支える支援機関を入れていくことも必要。専門性を持った支援員に定期的にセンターに来てもらい、センターで専門的な相談支援ができるとよい。

いじめ等の対人関係での問題など、学齢期・若年期のダメージをできるかぎり予防することが重要。また社会的になれなかったり、その場の雰囲気に合わせて時にといた発達特性や、そこから生ずる生きづらさ・困り感についての悩みなどを受け止め、支援している専門機関との連携が、どんな若者でも受け入れるセンターにとって非常に大切である。

生きづらさを抱えた若者が利用しやすい環境をつくるには、待っているだけはいけない。利用してもらえるような働きかけが必要であり、今後検討していく必要がある。

リスク管理の意味からも、ケースミーティングを柔軟に開催できるような体制やメルクマールせたがや、子ども家庭センター、児童相談所などにすぐ相談できる体制について、今後検討していく必要がある。

センターに必要な職員とはどんな人？

信頼できる大人であること

話を聞いてくれる人、見守ってくれる人

深刻な悩みのときに助けてくれる専門的な知識やスキルを持った人

盾になってくれる大人

若者の視点に立って物事を考えることができる人が必要であり、また笑顔を見ると安心できる、信頼できる大人であることが重要な資質だと考えられます。

一方で、深刻な問題を抱えた若者の危機とSOSに気づいたり、緊急時の適切な介入ができる専門的な知識やスキルとネットワークを持った人材も必要であります。

地域の人と若者をつないだり、若者同士をつないだり、つなぎ力(コーディネート力)のある人が求められています。

センターを運営する事業者は、高い理想を掲げて、この地域にとって重要な拠点となる場として機能させる上では、地域での円滑な受け入れや若者と良好な関係で出会えるように、地域運営委員会のサポートを必要としています。

- ・ 信頼できる大人
- ・ 傾聴力や共感力がある人
- ・ 経験や専門性を持った人
- ・ マッチング(若者同士、若者と地域の人をつなぐ等)のできる人

【検討と意見】

職員に求められる職員像・資質

何かあったとき、まもってくれる、盾になってくれる人

地域のことを知っている人

必ずしも最初から地域を知っている必要はない。知ろうという姿勢のある人

可能性をくれる人 待ってくれる人 誘ってくれる人 見守ってくれる人

やりたい、やりたくないをどちらも応援してくれる人

丁度良い距離感を保ってくれる人 自分を否定せずに話を聞いてくれる人

気を使わずタメ口で話せる人

利用の仕方が悪い人にしっかりと注意できる人

嫌な敬語ではなく良い意味で敬語で話せる人 自分を理解し協力してくれる人

何か問いを出したときに考えを押し付けない。答えではなくヒントをたくさんくれる人。

発想力豊かな人 利用者のことをよく見てくれる人

たわいもないちょっとした声かけから若者と良好な関係を築いてくれる人

地域との関係を大切にしてくれる人、地域と子どもをつないでくれる人

居やすい場であるために、輪に入れるようつないでくれる人

色々な人が来やすい・居やすいような場であってほしいので、例えばノリの良い職員ばかりだと、大人しい若者が来づらくなる。

子どもっぽい人やお父さんのような人

黙って話を聞いてくれる人

若い人、ベテランの人

子どもと一緒に盛り上がってくれる人、それを許してくれる人

相談する内容によって相談相手を変えられるように、色々なタイプの人にしてほしい。

例えば、恋愛相談や進路相談は大学生世代やちょっと年上の人に。

生きづらさを抱えた若者や悩みを抱えた若者は保健室や生活指導の先生のような人がいてくれると心強い。

専門家にいてほしいときもある。高度な相談に対応するスキルをもっている人

塾の代わりに勉強を教えてくれる人がいると塾に行かなくても良くなる。

想定外のことが起きたり、失敗するのが当たり前だと教えられる人

いろんなチャレンジの場を確保してもらいつつ、失敗だけで終わらないようサポートしてくれる人

傾聴力や共感力が求められていることから、ある程度経験や専門性をもった職員が必要なのではないか。

「青少年が主体となれる場：どんな若者が利用する？」で考えたセンターを必要としている若者を受け容れられるスタッフ

同じスタッフが必ずそこにいるというのが重要（センターの顔になる）

「あそこに行ったらあの人がいる」という資質は大切

今の若者たちが関心を抱くような企画を創り出すスキル

若者同士、または若者と地域の方々をマッチングさせるスキル

スタッフの資質はコンセプトに沿って区がきちんと決めるべき

スタッフの研修・フォロー体制

プレーパークでは、子ども・若者と接することがしんどくなって潰れてしまう若いスタッフもいるため、採用2年間くらいは研修している。事務局・世話人等がサポートしている。

運営している中でうまくいかないこと、想定外のトラブルが起きることが必ずある。職員の中には利用者と接することがしんどくなりバーンアウトしてしまう者も出てくることも想定しておかなければならない。

そういったときに、その職員をサポートできる体制が敷かれているかどうかは鍵になる。管理するのではなく、気にかけること、サポートする姿勢が大事。

4 終わりに

学校が地域社会、コミュニティにおいて「場」や「拠点」として果たす役割が増しています。それは、私たちの社会が新しい時代の新しいつながり方や協働の形を取り始めたことが背景になって起こって来ています。特に中学校区は行政の仕組みの上で、一つの単位として扱われることも多く、中学校と地域の関わりはより重要になって来ています。一方で、少子高齢化が急速に進む中で学校の統廃合が全国で頻繁に行なわれ、どのように地域の核を維持していくかは大きな課題となっています。

希望丘中学校跡地の活用について考えるプロセスはまさにそうした大きな地域課題に取り組む契機となっています。地域住民は子どもや若者との協働をこれまでも多様な形で実践して来ており、そうした土台の上に新しい形の拠点・居場所づくりを展開できる可能性を秘めている場所でもあります。

委員会は中高生の時代からこのプロジェクトに関連した活動以外にも、プレーパークや児童館、そして「子どもぶんか村」という地域独自の取り組みの中で受容され、仲間を得て、信頼できる大人と協働の経験を持つ青少年検討部会と、熱い思いを持った大人たちとが並走する形で運営されました。

両者の意見を摺り合わせて、「若者が主体性を発揮できる」「若者が多世代と交流できる」「社会・地域の担い手としての若者の学びや成長を支える」「地域とともに若者を支え育てる」のコンセプトを実現する場とするための運営のあり方について議論を進めました。そして、若者運営委員会、地域運営委員会、事業者の三者の協働で運営を担い、三者からなる運営委員会が総括的な役割を担う形態が望ましいのではないかという意見がまとまりました。

議論の中で、区内の3館の青少年交流センターは相互に連携し、それぞれの特徴のある運営形態や実施事業の内容について、意見交換をしたり、一緒に研修を受けて、交流を図りながら、支え合い、人材育成を行なうことが提案されました。3センターは運営状況について、それぞれが評価を受け、改善すべき点は改善し、次のステップに展開していくことが大切です。若者と向き合いながら、地域とも交流し、さまざまなプログラムを展開することを目標に掲げる事業者もサポートを必要としているのです。

以上の点を踏まえ、本センターの運営にあたり重視すべき点は以下にまとめることができます。

- ・ 利用したい人が利用できる場をつくる
- ・ 若者と地域の意見を反映できる体制とする
- ・ 自己形成空間としての場として機能できるよう、信頼できる大人とともに、専門性を持つスタッフが他機関との連携も視野に入れて受容につとめる
- ・ 若者同士が育ち合う場であるために、相互に支え合うピア・サポートができてくるのが望ましい
- ・ ボランティアとしての役割だけでなく、ときには単なる利用者として過ごせるような、受容的で柔軟な場として運営されることが不可欠である

平成 29 年 6 月現在

(仮称) 希望丘青少年交流センター運営のあり方検討委員会 名簿

	所属	役職	氏名	
委員長	昭和薬科大学	教授	吉永 真理	
委員	青少年委員会	会長	宇佐美 武志	
	青少年船橋地区委員会	会長	佐藤 三智子	
	成城地区民生委員・児童委員協議会	会長	石井 優子	
	主任児童委員部会	部会長	明石 眞弓	
	船橋地区町会連合会	会長	吉田 仁	1~3月
			妹尾 廣子	4~6月
	千歳船橋商店街振興組合	理事長	池戸 義明	
	船橋希望中学校	校長	加藤 敏久	1~3月
			菅野 茂男	4~6月
	船橋希望中学校 PTA	会長	根本 寛子	1~3月
			平野 千晶	4~6月
	大東学園高等学校	校長	金子 広志	1~3月
	学校法人大東学園 世田谷福祉専門学校	校長		4~6月
	千歳丘高等学校	校長	小野村 浩	
	日本大学文理学部	教授	井上 仁	
	【若者支援団体】プレーパークせたがや	理事・事務局長	三輪 英児	
	【若者支援団体】社会福祉法人トポスの会	統括施設長	平 雅夫	
	【若者支援団体】NPO 法人 neomura	代表理事	新井 佑	
	【若者支援団体】岡さんのいえ TOMO	オーナー	小池 良実	
	青少年交流センター池之上青少年会館	館長	宗 豊	
野毛青少年交流センター	センター長	佐藤 真一郎		
喜多見児童館(中高生支援館)	館長	山田 勝政		
船橋児童館	館長	松井 晶子		
青少年検討部会				
岡田 朱里	緒方 ひめの	尾関 里桜	加藤 美羽	
小林 般	清水 里栄	高橋 亮祐	土田 華百	
富増 駿人	成澤 瑞紀	山本 悠	和久井 聡美	
事務局	子ども・若者部 若者支援担当課			
オブザーバー	砧総合支所地域振興課(船橋まちづくりセンター所長)			

(仮称)希望丘青少年交流センターに関するアンケート調査結果

1 調査目的

若い世代の皆さんの使い方についてのご意見・お考え・思い・イメージをお聞きしてよりよい施設にするため、また平成31年に開設する本センターについて近隣の若者に知り関心を持ってもらうきっかけとするため、検討委員の発案から近隣の中学・高校等へアンケート調査を実施することにしました。

2 調査対象

協力依頼先	回答数
船橋希望中学校	609人
千歳丘高等学校	211人
大東学園高等学校	209人
恵泉女学園高等学校	214人
喜多見児童館（中高生支援館）	12人
船橋児童館	11人
青少年交流センター池之上青少年会館	18人
野毛青少年交流センター	8人
合 計	1,292人

3 調査実施時期

平成29年4月下旬～5月中旬

4 調査項目

問1. あなたの性別は。

問2. あなたの年齢は。

問3. あなたはどこに住んでいますか。

問4. あなたは(仮称)希望丘青少年交流センターが開設することを知っていますか？

問5. (知っていると答えた方に) 何で知りましたか

問6. (仮称)希望丘青少年交流センターにどんなことを期待しますか？

問7. (仮称)希望丘青少年交流センターにある以下の部屋やスペースでやってみたいことをお聞きします。

A. ホール

B. 交流スペース&多目的利用室

C. 音楽スタジオ

D. 調理室

E. 学習室

F. 会議室

G. その他デッキなど

問8. (仮称)希望丘青少年交流センターにあったら良い設備について

問9. (仮称)希望丘青少年交流センターが開設したら利用したいと思いますか？

問10. 開設準備の時期からイベントの企画や運営に関する意見交換などをしてみたいと考えていますが、このような活動に興味がありますか？

5 調査結果

- ・このアンケートは、無作為抽出による調査ではなく、近隣の中学・高校等に協力いただき実施したものです。女性の割合が高い理由は、女子高に協力いただいたためです。回答方法は選択肢制を採り、該当する項目にチェックしてもらう形式としました。
- ・こうしたことから、この調査結果は区内の若者全体の意識というより、近隣の中学・高校に通う生徒を中心に、児童館・既存青少年交流センターの利用者の考えや期待の傾向を調査したものととして活用していく必要があります。
- ・今回の調査結果の主なものとしては、「問6 .(仮称)希望丘青少年交流センターにどんなことを期待しますか?」の問いに、回答が多かった順に見ると以下のような結果が得られました(N = 1282)。

多い順	項目	回答数
1	なるべくお金がかからないで過ごせる	755人
2	使いたい時に気軽に利用できる	695人
3	長時間過ごせる	555人
4	日曜日や祝日も利用できる	486人
5	何もしないでいられる	426人
6	面白いスタッフがいる	399人
7	夜(9時頃まで)も利用できる	383人
8	やさしいスタッフがいる	375人
8	利用方法に細かい決まりがない	375人
10	学校以外の友達と知り合える	247人

- ・この結果は、本報告書の「3 運営のあり方について」の(1)青少年が主体となれる場、(2)どんな場であるべきか、(3)多目的に利用できる場、(6)どのように運営していくか、に報告した内容を裏打ちするものになりました。
- ・今後、運営方法や運営体制について具体的に検討していく中で、さまざまな組み合わせのクロス集計を実施し、結果を活用していくことが望まれます。

6 調査結果の見方

- ・百分比は各区分の有効回答数(合計値)を100%として算出し、図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してあります。比率の合計が必ずしも100.0%にならない場合があります。

	利用したい	利用しない	合計
中学生	529	86	615
男	270 84.6%	49 15.4%	319
女	259 87.5%	37 12.5%	296

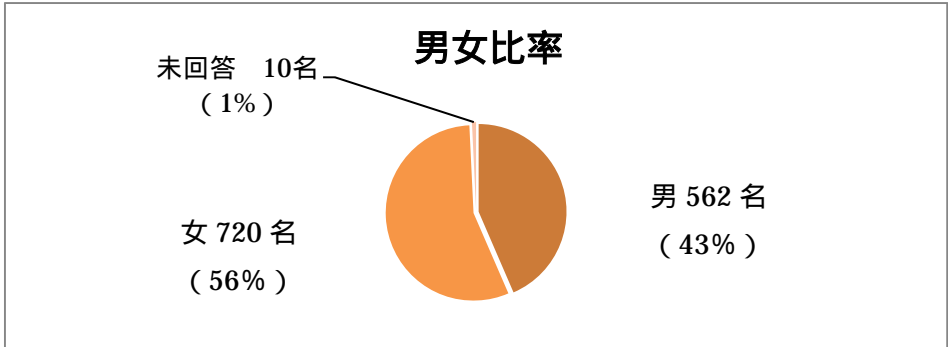
中学生・男全体の中で「利用したい」と回答した人数

中学生・女全体(296人)の中で「利用したい」と回答した割合
87.5% = 259/296人

基礎情報

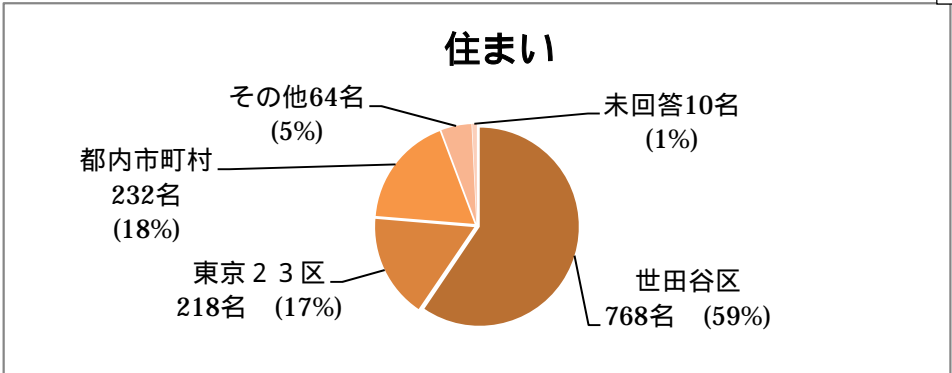
N = 1282

問1 性別



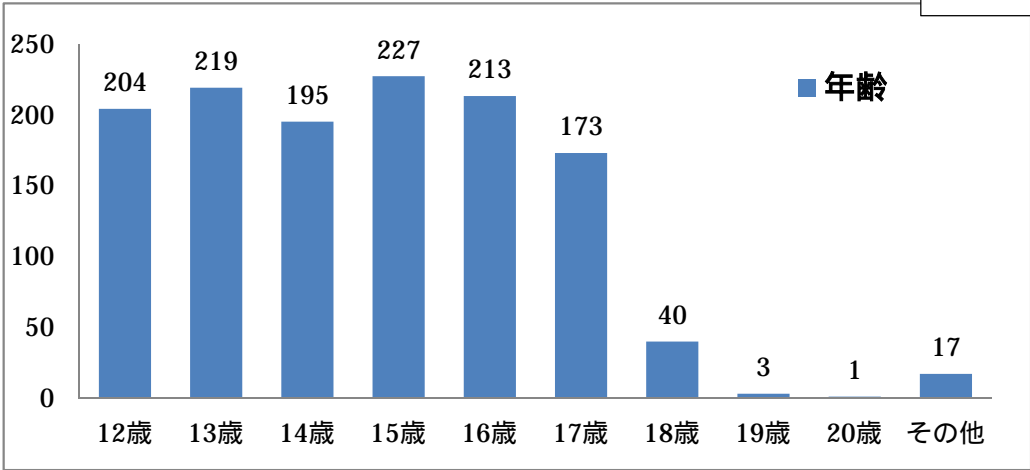
問2 住まい

N = 1282



問3 年齢

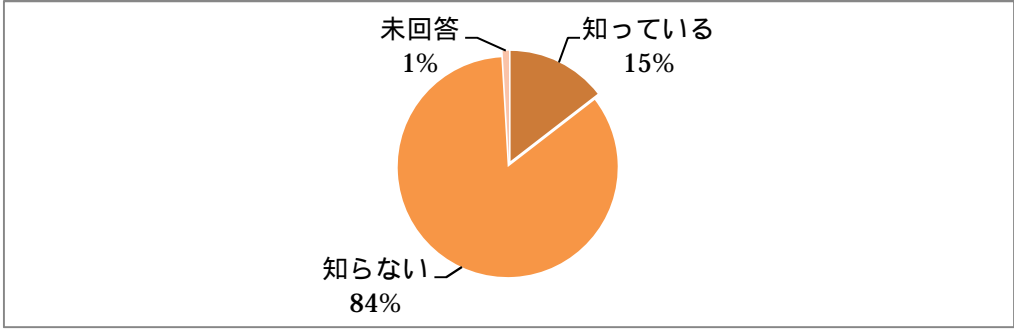
N = 1282



	世田谷区	23区	都内	その他	合計
中学生	626	6		1	633
男	323	5			328
女	303	1		1	305
高校生世代	131	208	232	63	634
男	36	65	108	13	222
女	95	143	124	50	412
大学生世代以降	11	4			15
男	10	4			14
女	1				1
合計	768	218	232	64	1282

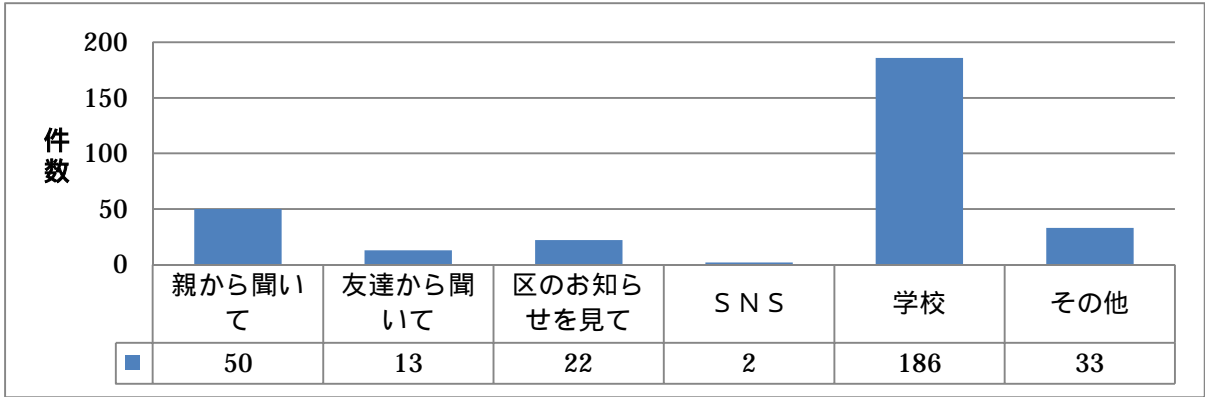
問4 あなたは、(仮称)希望丘青少年交流センターが開設することを知っていますか。

N = 1280



問5 (知っていると答えた方のみ) 何で知りましたか。

N = 188 複数回答



[年代・男女別]

	知っている	知らない	合計
中学生	160	470	630
男	76	249	325
女	84	221	305
高校生世代	21	614	635
男	9	213	222
女	12	401	413
大学生世代以降	7	8	15
男	6	8	14
女	1		1
合計	188	1092	1280

	知っている と回答した 人数	親から 聞いて	友達から 聞いて	区のお 知らせを 見て	SNS	学校	その他
中学生	160	49	8	18		107	23
男	76	19	6	12		50	12
女	84	30	2	6		57	11
高校生世代	21	1	2	2	2	79	7
男	9	1	1	2	1	23	4
女	12		1		1	56	3
大学生世代以降	7	3	2	2		3	3
男	6	2	1	1			3
女	1	1	1	1			0.0%
合計	188	50	13	22	2	186	33

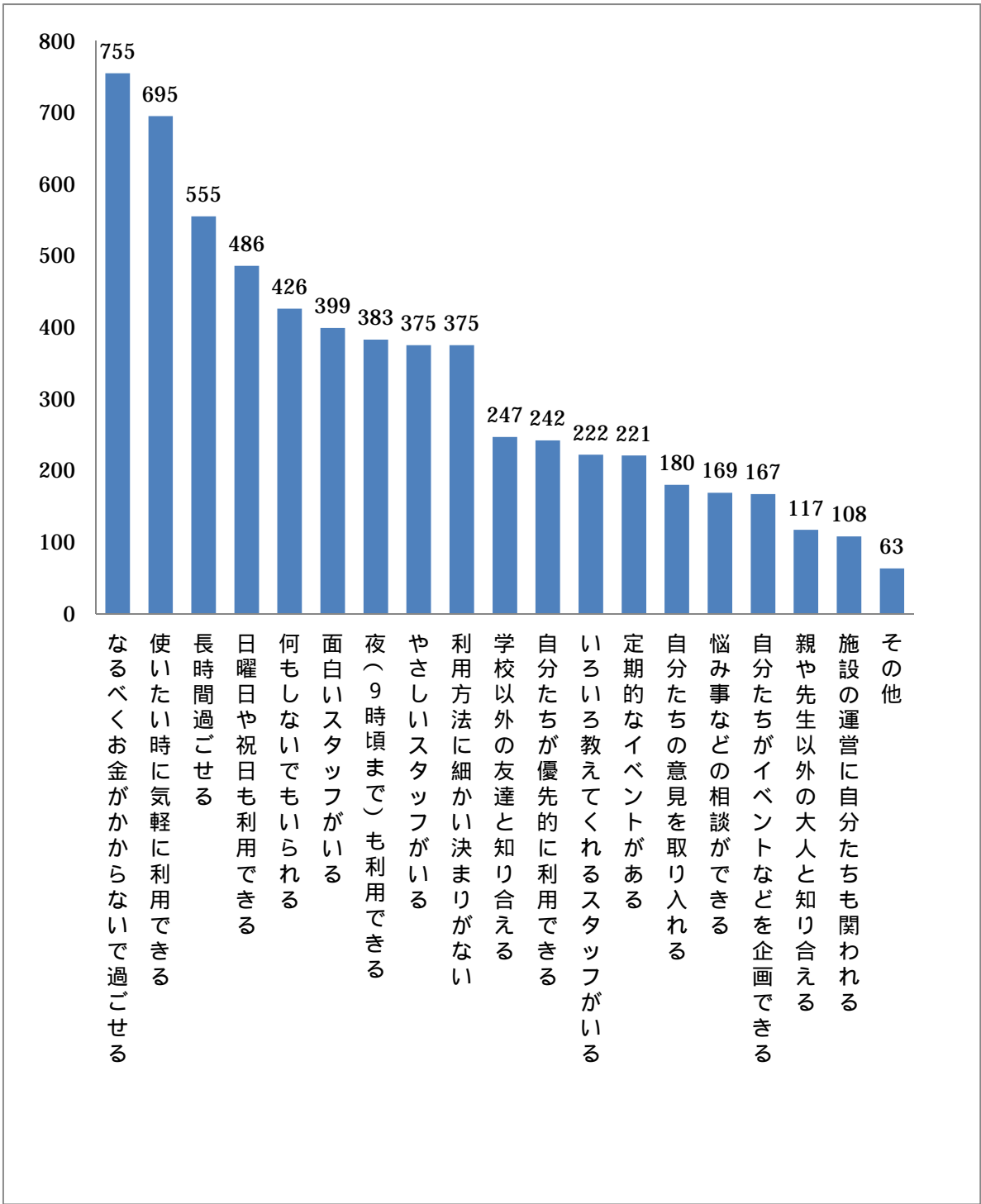
[年代・住まい別]

	知っている	知らない	合計
中学生	160	471	631
世田谷区内	159 25.7%	460 74.3%	619
23区	1 16.7%	5 83.3%	6
都内			0
その他		1 100.0%	1
高校生世代	21	613	634
世田谷区内	7 5.3%	124 94.7%	131
23区	7 3.4%	201 96.6%	208
都内	6 2.6%	226 97.4%	232
その他	1 1.6%	62 98.4%	63
大学生世代以降	7	8	15
世田谷区内	7 63.6%	4 36.4%	11
23区		4 100.0%	4
都内			0
その他			0
	188	1092	1280

	知っている と回答した 人数	親から 聞いて	友達から 聞いて	区のお 知らせを 見て	S N S	学 校	そ の 他
中学生	160	49	8	18		107	23
世田谷区内	159	49 30.8%	8 5.0%	18 11.3%		105 66.0%	23 14.5%
23区	1					2 200.0%	
都内							
その他							
高校生世代	21	1	2	2	2	79	7
世田谷区内	7	1 14.3%		2 28.6%	1 14.3%	14 200.0%	2 28.6%
23区	7		1 14.3%			27 385.7%	3 42.9%
都内	6		1 16.7%		1 16.7%	28 466.7%	2 33.3%
その他	1					10 1000.0%	
大学生世代以降	7		3	2			3
世田谷区内	7		3 42.9%	2 28.6%			3 42.9%
23区							
都内							
その他							
	188	50	13	22	2	186	33

問6 (仮称) 希望丘青少年交流センターにどんなことを期待しますか。

N = 1282 複数回答



[年代・男女別]

	有効回答数	なるべくお金がかからないで過ごせる	日曜日や祝日も利用できる	使いたい時に気軽に利用できる	自分たちがイベントなどを企画できる	自分たちが優先的に利用できる	施設の運営に自分たちも関わられる	いろいろ教えてくれるスタッフががいる	面白いスタッフががいる	学校以外の友達と知り合える	悩み事などの相談ができる	夜（9時頃まで）も利用できる	長時間過ごせる	定期的なイベントがある	自分たちの意見を取り入れる	何もしないでもいられる	やさしいスタッフががいる	利用方法に細かい決まりがない	親や先生以外の大人と知り合える	その他
中学生	633	413	297	424	90	148	56	126	238	137	75	198	320	145	108	241	224	243	57	32
男	328	211	155	197	48	83	31	62	114	66	34	104	152	67	54	128	93	118	29	17
		64.3%	47.3%	60.1%	14.6%	25.3%	9.5%	18.9%	34.8%	20.1%	10.4%	31.7%	46.3%	20.4%	16.5%	39.0%	28.4%	36.0%	8.8%	5.2%
女	305	202	142	227	42	65	25	64	124	71	41	94	168	78	54	113	131	125	28	15
		66.2%	46.6%	74.4%	13.8%	21.3%	8.2%	21.0%	40.7%	23.3%	13.4%	30.8%	55.1%	25.6%	17.7%	37.0%	43.0%	41.0%	9.2%	4.9%
高校生世代	634	331	180	262	71	89	47	92	155	104	92	175	226	74	68	176	147	125	54	29
男	222	109	59	78	26	27	19	33	54	32	30	62	72	27	33	54	44	34	16	10
		49.1%	26.6%	35.1%	11.7%	12.2%	8.6%	14.9%	24.3%	14.4%	13.5%	27.9%	32.4%	12.2%	14.9%	24.3%	19.8%	15.3%	7.2%	4.5%
女	412	223	121	184	45	62	28	59	101	72	62	113	154	47	35	122	103	91	38	19
		54.1%	29.4%	44.7%	10.9%	15.0%	6.8%	14.3%	24.5%	17.5%	15.0%	27.4%	37.4%	11.4%	8.5%	29.6%	25.0%	22.1%	9.2%	4.6%
大学生世代以降	15	11	9	9	6	5	5	4	6	6	2	10	9	2	4	9	4	7	6	2
男	14	11	9	9	5	5	4	3	5	6	2	10	9	2	3	8	4	7	5	2
		78.6%	64.3%	64.3%	35.7%	35.7%	28.6%	21.4%	35.7%	42.9%	14.3%	71.4%	64.3%	14.3%	21.4%	57.1%	28.6%	50.0%	35.7%	14.3%
女	1				1		1	1	1						1	1			1	
					100.0%		100.0%	100.0%	100.0%						100.0%	100.0%			100.0%	
合計	1282	755	486	695	167	242	108	222	399	247	169	383	555	221	180	426	375	375	117	63

[年代・住まい別]

	有効回答数	なるべくお金がかからないで過ごせる	日曜日や祝日も利用できる	使いたい時に気軽に利用できる	自分たちがイベントなどを企画できる	自分たちが優先的に利用できる	施設の運営に自分たちも関わられる	いろいろ教えてくれるスタッフががいる	面白いスタッフががいる	学校以外の友達と知り合える	悩み事などの相談ができる	夜（9時頃まで）も利用できる	長時間過ごせる	定期的なイベントがある	自分たちの意見を取り入れる	何もしないでもいられる	やさしいスタッフががいる	利用方法に細かい決まりがない	親や先生以外の大人と知り合える	その他
中学生	633	413	297	424	90	148	56	126	238	137	75	198	320	145	108	241	224	243	57	32
世田谷区内	626	410	294	421	89	147	55	123	235	136	73	195	316	142	107	240	220	242	56	30
		65.5%	47.0%	67.3%	14.2%	23.5%	8.8%	19.6%	37.5%	21.7%	11.7%	31.2%	50.5%	22.7%	17.1%	38.3%	35.1%	38.7%	8.9%	4.8%
23区	6	3	3	3	1	1	1	3	3	1	2	3	4	3	1	1	4	1	1	2
		50.0%	50.0%	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	50.0%	50.0%	16.7%	33.3%	50.0%	66.7%	50.0%	16.7%	16.7%	66.7%	16.7%	16.7%	33.3%
都内																				
その他	1																			
高校生世代	634	331	180	262	71	89	47	92	155	104	92	175	226	74	68	176	147	125	54	29
世田谷区内	131	62	45	60	12	17	9	16	32	20	21	38	41	8	12	32	32	26	9	8
		47.3%	34.4%	45.8%	9.2%	13.0%	6.9%	12.2%	24.4%	15.3%	16.0%	29.0%	31.3%	6.1%	9.2%	24.4%	24.4%	19.8%	6.9%	6.1%
23区	208	106	56	77	23	31	12	29	48	31	29	55	70	22	23	60	49	42	17	10
		51.0%	26.9%	37.0%	11.1%	14.9%	5.8%	13.9%	23.1%	14.9%	13.9%	26.4%	33.7%	10.6%	11.1%	28.8%	23.6%	20.2%	8.2%	4.8%
都内	232	132	67	95	29	32	23	40	61	40	36	68	91	40	31	64	53	45	22	7
		56.9%	28.9%	40.9%	12.5%	13.8%	9.9%	17.2%	26.3%	17.2%	15.5%	29.3%	39.2%	17.2%	13.4%	27.6%	22.8%	19.4%	9.5%	3.0%
その他	63	31	12	30	7	9	3	7	14	13	6	14	24	4	2	20	13	12	6	4
		49.2%	19.0%	47.6%	11.1%	14.3%	4.8%	11.1%	22.2%	20.6%	9.5%	22.2%	38.1%	6.3%	3.2%	31.7%	20.6%	19.0%	9.5%	6.3%
大学生世代以降	15	11	9	9	6	5	5	4	6	6	2	10	9	2	4	9	4	7	6	2
世田谷区内	11	7	6	5	6	3	5	4	5	4	2	6	7	2	4	7	3	4	6	2
		63.6%	54.5%	45.5%	54.5%	27.3%	45.5%	36.4%	45.5%	36.4%	18.2%	54.5%	63.6%	18.2%	36.4%	63.6%	27.3%	36.4%	54.5%	18.2%
23区	4	4	3	4		2			1	2		4	2			2	1	3		
		100.0%	75.0%	100.0%		50.0%			25.0%	50.0%		100.0%	50.0%			50.0%	25.0%	75.0%		
都内																				
その他																				
合計	1282	755	486	695	167	242	108	222	399	247	169	383	555	221	180	426	375	375	117	63

【年代・希望丘青少年交流センターを知っているか】

	有効回答数	なるべくお金がかからないで過ごせる	日曜日や祝日も利用できる	使いたい時に気軽に利用できる	自分たちがイベントなどを企画できる	自分たちが優先的に利用できる	施設の運営に自分たちも関わられる	いろいろ教えてくれるスタッフががいる	面白いスタッフががいる	学校以外の友達と知り合える	悩み事などの相談ができる	夜（9時頃まで）も利用できる	長時間過ごせる	定期的なイベントがある	自分たちの意見を取り入れる	何もしなくてもいられる	やさしいスタッフががいる	利用方法に細かい決まりがない	親や先生以外の大人と知り合える	その他
中学生	630	413	297	424	90	148	56	126	238	137	75	198	320	145	108	241	224	243	57	32
知っている	160	104	81	116	28	38	17	31	59	39	23	56	89	41	34	63	54	53	17	10
知らない	470	309	216	308	62	110	39	95	179	98	52	142	231	104	74	178	170	190	40	22
高校生世代	635	331	180	262	71	89	47	92	155	104	92	175	226	74	68	176	147	125	54	29
知っている	21	15	8	12	3	2		4	5	5	3	7	10	3	2	9	7	6	1	1
知らない	614	316	172	250	68	87	47	88	150	99	89	168	216	71	66	167	140	119	53	28
大学生世代以降	15	11	9	9	6	5	5	4	6	6	2	10	9	2	4	9	4	7	6	2
知っている	7	5	4	4	5	2	5	4	5	4	2	3	3	2	4	5	3	4	6	2
知らない	8	6	5	5	1	3			1	2		7	6			4	1	3		
合計	1280	755	486	695	167	242	108	222	399	247	169	383	555	221	180	426	375	375	117	63

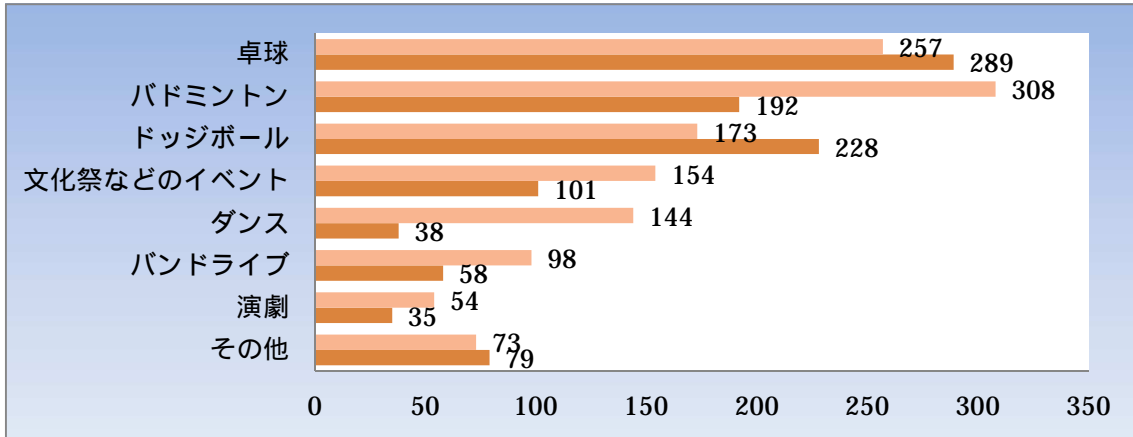
【年代・希望丘青少年交流センターを利用したいか】

	有効回答数	なるべくお金がかからないで過ごせる	日曜日や祝日も利用できる	使いたい時に気軽に利用できる	自分たちがイベントなどを企画できる	自分たちが優先的に利用できる	施設の運営に自分たちも関わられる	いろいろ教えてくれるスタッフががいる	面白いスタッフががいる	学校以外の友達と知り合える	悩み事などの相談ができる	夜（9時頃まで）も利用できる	長時間過ごせる	定期的なイベントがある	自分たちの意見を取り入れる	何もしなくてもいられる	やさしいスタッフががいる	利用方法に細かい決まりがない	親や先生以外の大人と知り合える	その他
中学生	615	413	297	424	90	148	56	126	238	137	75	198	320	145	108	241	224	243	57	32
利用したい	529	355	269	377	76	128	46	111	222	124	62	182	289	130	96	202	202	213	47	24
利用しない	86	58	28	47	14	20	10	15	16	13	13	16	31	15	12	39	22	30	10	8
高校生世代	590	331	180	262	71	89	47	92	155	104	92	175	226	74	68	176	147	125	54	29
利用したい	349	225	136	193	53	69	37	73	118	77	68	130	154	62	52	122	108	92	43	17
利用しない	241	106	44	69	18	20	10	19	37	27	24	45	72	12	16	54	39	33	11	12
大学生世代以降	15	11	9	9	6	5	5	4	6	6	2	10	9	2	4	9	4	7	6	2
利用したい	12	8	7	6	5	4	4	3	5	4	1	7	7	1	3	8	3	6	5	1
利用しない	3	3	2	3	1	1	1	1	1	2	1	3	2	1	1	1	1	1	1	1
合計	1220	755	486	695	167	242	108	222	399	247	169	383	555	221	180	426	375	375	117	63

問7 (仮称) 希望丘青少年交流センターにある以下の部屋やスペースで
 やってみたいこと

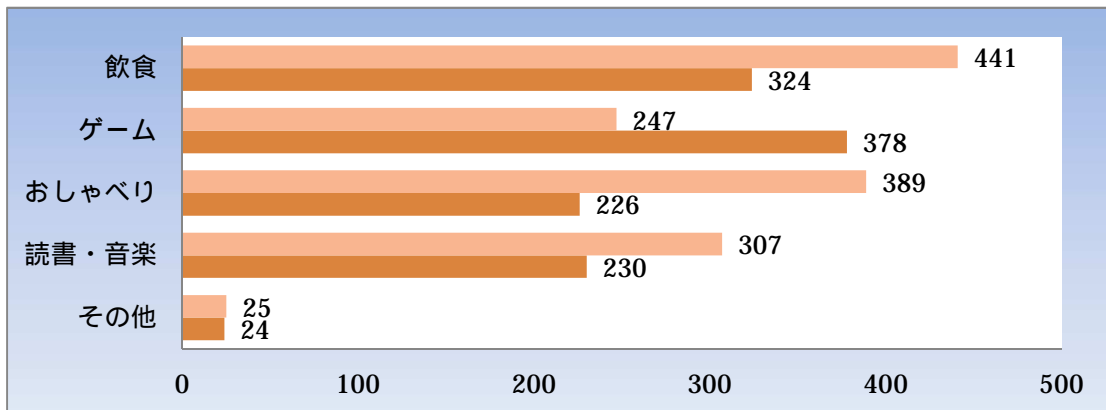
N = 1282 複数回答
 上段：女、下段：男

ホール



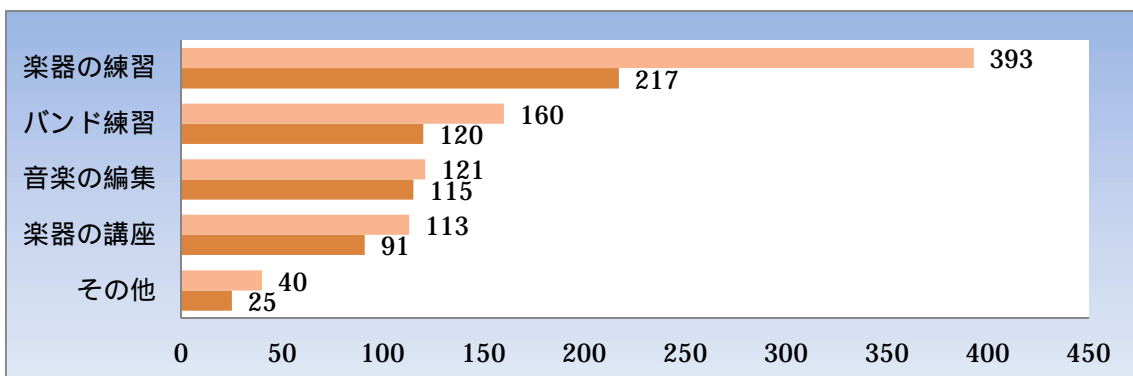
【その他回答】映画鑑賞、フットサル、バレーボール、バスケ、テニス、野球、
 トランポリンなど

交流スペース&多目的利用室



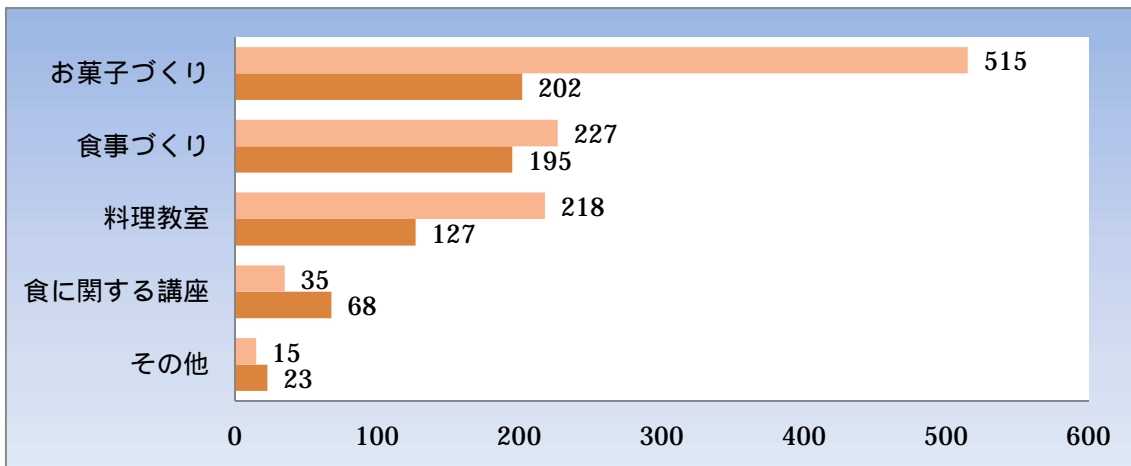
【その他回答】漫画を読みたい、教え合える勉強、将棋、スマホの充電、テレビ、図書館など

音楽スタジオ



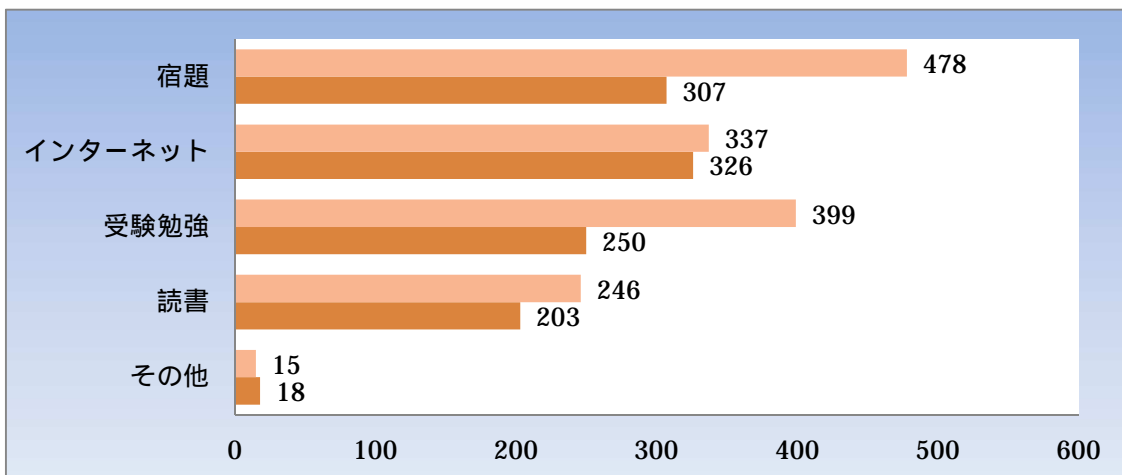
【その他回答】カラオケ、ダンス、ライブ、DJ、ボイストレーニング、合唱、ピアノなど

調理室



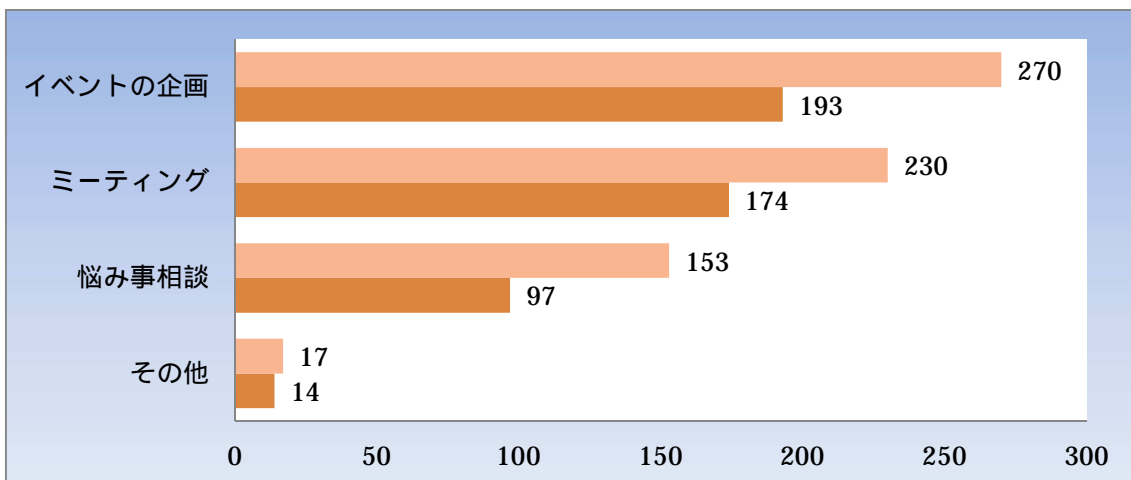
【その他回答】食べる、無料のごはんづくり、バイキング、裁縫、小物作りや刺繍等の講座、バーベキューなど

学習室



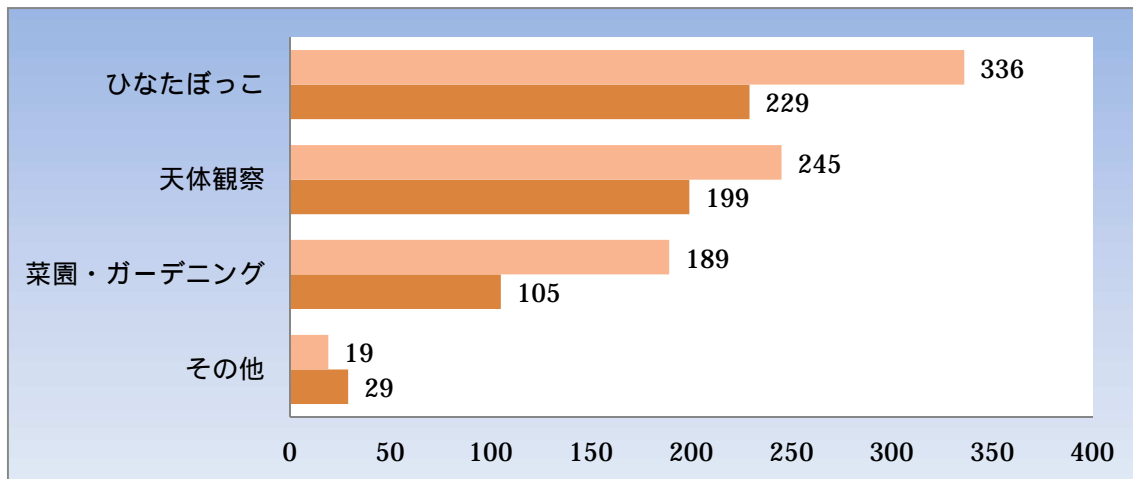
【その他回答】リスニング、テスト勉強、印刷機とパソコンなど

会議室



【その他回答】サッカー会議、自由に使う など

その他デッキなど

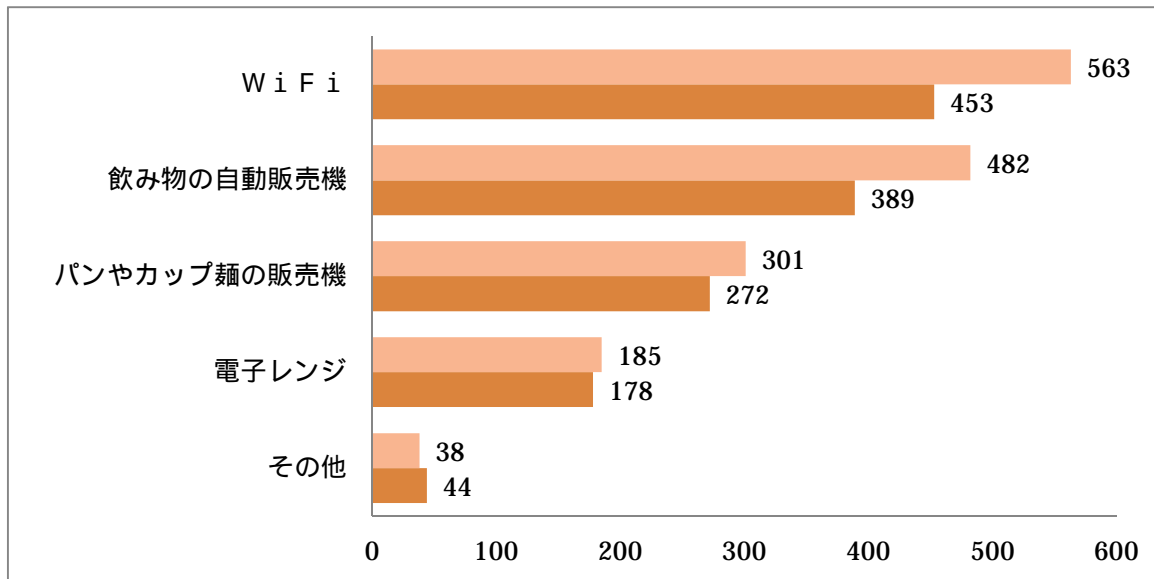


【その他回答】

昼寝、プール、おにごっこ、流しそうめん、外でボールなどを使って思い切り遊べるスペース、バスケットゴールでバスケ、ひなたぼっこしながら読書、サッカー など

問8 (仮称)希望丘青少年交流センターにあったら良い設備は何ですか。

N = 1282 複数回答
上段：女、下段：男

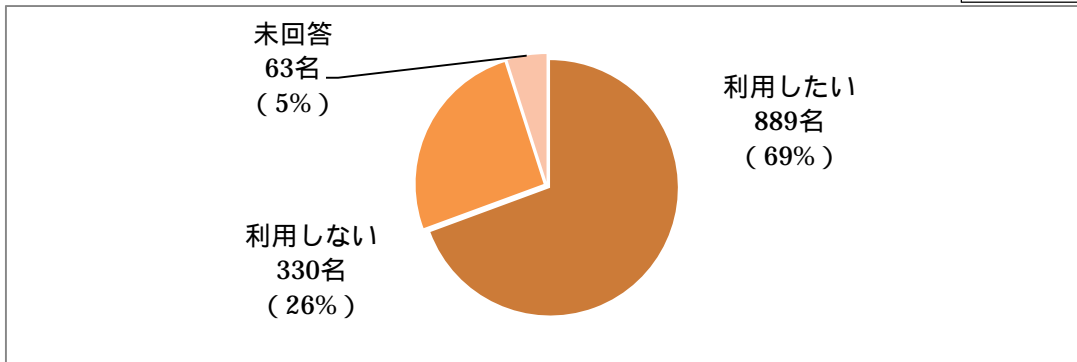


【その他回答】

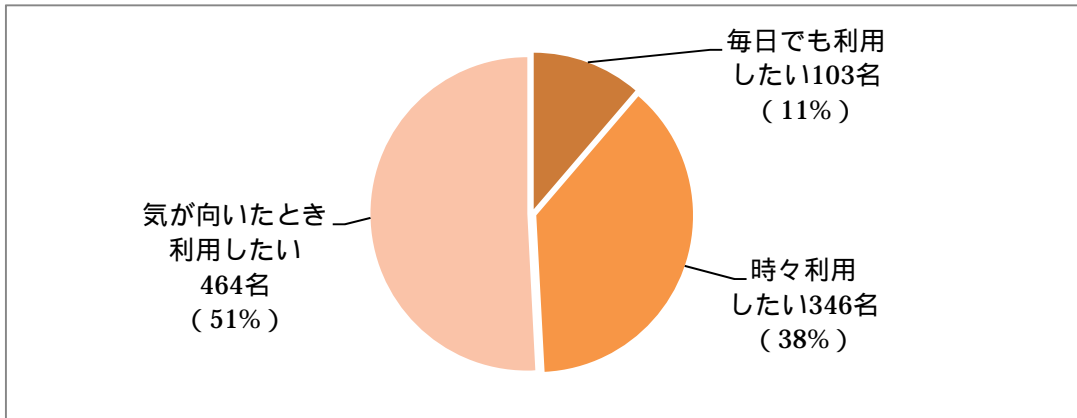
スマホの充電スペース、冷水機、ヘアアイロンの使用可能なメイクルーム、コンセント、ブランケットの貸出し、電気ポット、アイスの販売機、ジム、本、テレビ、ゲーム機

問9 (仮称) 希望丘青少年交流センターが開設したら利用したいと思いますか。

N = 1282



《利用の頻度》



[年代・男女別]

	利用したい	利用しない	合計
中学生	529	86	615
男	270	49	319
	84.6%	15.4%	
女	259	37	296
	87.5%	12.5%	
高校生世代	349	241	590
男	132	68	200
	66.0%	34.0%	
女	217	173	390
	55.6%	44.4%	
大学生世代以降	12	3	15
男	11	3	14
	78.6%	21.4%	
女	1	0	1
	100.0%	0.0%	
合計	890	330	1220

	利用したい	毎日	時々	気が向いたとき
中学生	529	66	219	253
男	270	44	104	127
		16.3%	38.5%	47.0%
女	259	22	115	126
		8.5%	44.4%	48.6%
高校生世代	349	34	125	205
男	132	19	55	64
		14.4%	41.7%	48.5%
女	217	15	70	141
		6.9%	32.3%	65.0%
大学生世代以降	12	4	2	6
男	11	4	2	5
		36.4%	18.2%	45.5%
女	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	100.0%
合計	890	104	346	464

[年代・住まい別]

	利用したい	利用しない	合計
中学生	529	86	615
区内	524	85	609
	86.0%	14.0%	
23区	5	1	6
	83.3%	16.7%	
都内			0
その他			0
高校生世代	349	241	590
区内	79	41	120
	65.8%	34.2%	
23区	110	80	190
	57.9%	42.1%	
都内	133	83	216
	61.6%	38.4%	
その他	27	37	64
	42.2%	57.8%	
大学生世代以降	12	3	15
区内	9	2	11
	81.8%	18.2%	
23区	3	1	4
	75.0%	25.0%	
都内			0
その他			0
合計	890	330	1220

	利用したい	毎日	時々	気が向いたとき
中学生	529	66	219	253
区内	524	65	219	253
		12.4%	41.8%	48.3%
23区	5	1	4	
		20.0%	80.0%	
都内				
その他				
高校生世代	349	34	125	205
区内	79	6	28	48
		7.6%	35.4%	60.8%
23区	110	10	43	62
		9.1%	39.1%	56.4%
都内	133	16	46	75
		12.0%	34.6%	56.4%
その他	27	2	8	20
		7.4%	29.6%	74.1%
大学生世代以降	12	4	2	6
区内	9	2	2	5
		22.2%	22.2%	55.6%
23区	3	2		1
		66.7%		33.3%
都内				
その他				
合計	890	104	464	464

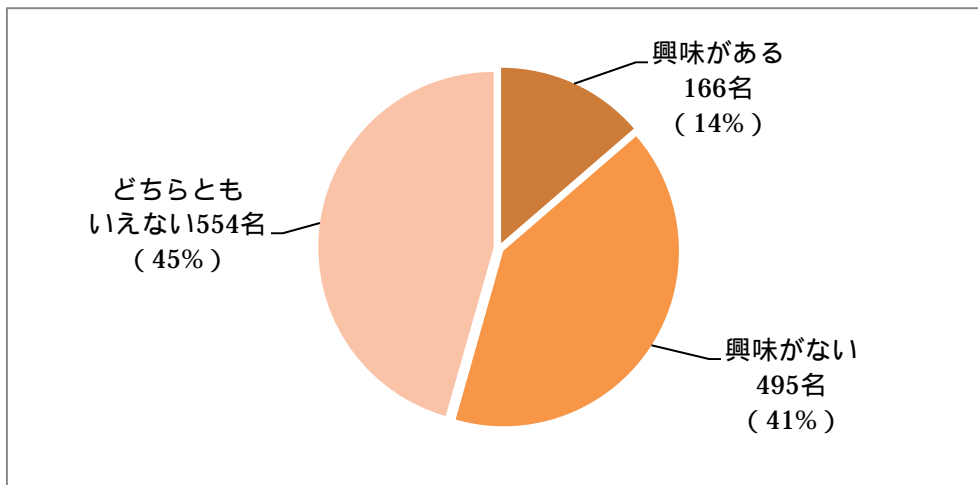
[年代・希望丘青少年交流センターを知っているか]

	利用したい	利用しない	合計
中学生	529	86	615
知っている	139	19	158
	88.0%	12.0%	
知らない	390	67	457
	85.3%	14.7%	
高校生世代	349	241	590
知っている	15	5	20
	75.0%	25.0%	
知らない	334	236	570
	58.6%	41.4%	
大学生世代以降	12	3	15
知っている	6	1	7
	85.7%	14.3%	
知らない	6	2	8
	75.0%	25.0%	
合計	890	330	1220

	利用したい	毎日	時々	気が向いたとき
中学生	529	66	219	253
知っている	139	21	63	56
		15.1%	45.3%	40.3%
知らない	390	45	156	197
		11.5%	40.0%	50.5%
高校生世代	349	34	125	205
知っている	15	1	8	5
		6.7%	53.3%	33.3%
知らない	334	33	117	200
		9.9%	35.0%	59.9%
大学生世代以降	12	4	2	6
知っている	6	2	1	3
		33.3%	16.7%	50.0%
知らない	6	2	1	3
		33.3%	16.7%	50.0%
合計	890	104	346	464

問10 (仮称) 希望丘青少年交流センターの開設準備の活動や委員会に興味がありますか？

N = 1282



【年代・男女別】

	興味がある	興味が無い	どちらとも いえない	合計
中学生	100	209	305	614
男	54 17.0%	120 37.9%	143 45.1%	317
女	46 15.5%	89 30.0%	162 54.5%	297
高校生世代	64	280	243	587
男	27 13.4%	88 43.8%	86 42.8%	201
女	37 9.6%	192 49.7%	157 40.7%	386
大学生世代以降	3	6	6	15
男	3 21.4%	6 42.9%	5 35.7%	14
女			1 100.0%	1
合計	167	495	554	1216

【年代・住まい別】

	興味がある	興味が無い	どちらとも いけない	合計
中学生	100	209	305	614
区内	99 16.3%	206 33.9%	303 49.8%	608
23区	0.0%	3 60.0%	2 40.0%	5
都内				0
その他	1 100.0%			1
高校生世代	64	280	243	587
区内	10 8.3%	48 40.0%	62 51.7%	120
23区	27 14.4%	91 48.4%	70 37.2%	188
都内	22 10.2%	98 45.6%	95 44.2%	215
その他	5 7.8%	43 67.2%	16 25.0%	64
大学生世代以降	3	6	6	15
区内	3 27.3%	3 27.3%	5 45.5%	11
23区		3 75.0%	1 25.0%	4
都内				0
その他				0
合計	167	495	554	1216

【年代・希望丘青少年交流センターを知っているか】

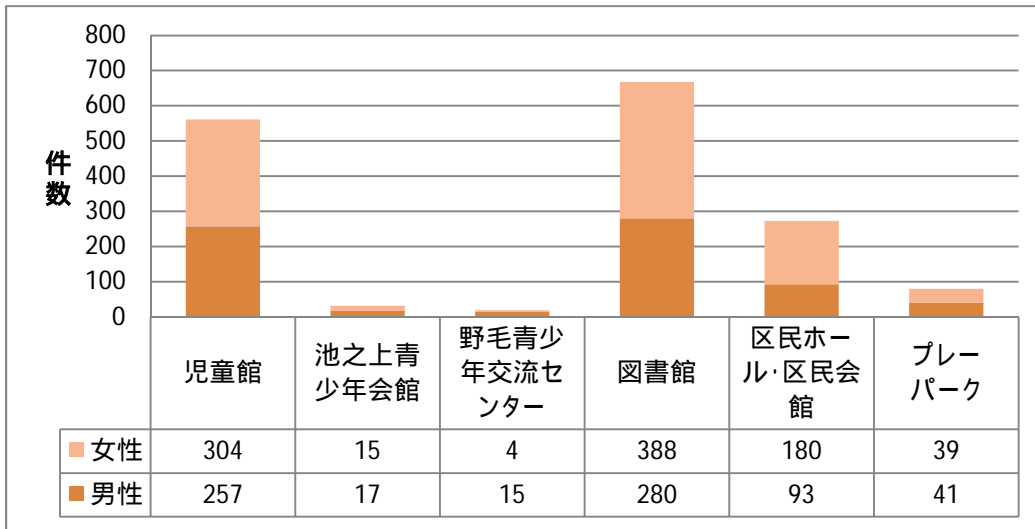
	興味がある	興味が無い	どちらとも いけない	合計
中学生	100	209	305	614
知っている	39 24.8%	50 31.8%	68 43.3%	157
知らない	61 13.3%	159 34.8%	237 51.9%	457
高校生世代	64	280	243	587
知っている	3 15.0%	4 20.0%	13 65.0%	20
知らない	61 10.8%	276 48.7%	230 40.6%	567
大学生世代以降	3	6	6	15
知っている	3 42.9%	1 14.3%	3 42.9%	7
知らない		5 62.5%	3 37.5%	8
合計	167	495	554	1216

【年代・希望丘青少年交流センターを利用したいか】

	興味がある	興味が無い	どちらとも いえない	合計
中学生	100	209	305	614
利用したい	97 18.5%	147 28.1%	279 53.3%	523
利用しない	3 3.3%	62 68.1%	26 28.6%	
高校生世代	64	280	243	587
利用したい	59 17.1%	108 31.3%	178 51.6%	345
利用しない	5 2.1%	172 71.1%	65 26.9%	
大学生世代以降	3	6	6	15
利用したい	3 25.0%	5 41.7%	4 33.3%	12
利用しない		1 33.3%	2 66.7%	
合計	167	495	554	1216

問 1 1 世田谷区には青少年が利用できる公共施設があります。
次の公共施設を利用したことがありますか？

N = 1282 複数回答



【年代・男女別】

	合計	児童館	池之上青少年会館	野毛青少年交流センター	図書館	区民ホール・会館	プレーパーク
中学生	633	428	10	7	461	197	47
男	328	211 64.3%	5 1.5%	6 1.8%	214 65.2%	71 21.6%	30 9.1%
女	305	217 71.1%	5 1.6%	1 0.3%	247 81.0%	126 41.3%	17 5.6%
高校生世代	634	127	15	5	200	75	29
男	222	40 18.0%	4 1.8%	3 1.4%	59 26.6%	19 8.6%	8 3.6%
女	412	87 21.1%	11 2.7%	2 0.5%	141 34.2%	56 13.6%	21 5.1%
大学生世代以降	15	6	8	7	7	4	4
男	14	5 35.7%	8 57.1%	6 42.9%	6 42.9%	4 28.6%	3 21.4%
女	1	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
合計	1282	561	33	19	668	276	80

[年代・住まい別]

	合計	児童館	池之上 青少年会館	野毛 青少年 交流センター	図書館	区民ホール ・会館	プレー パーク
中学生	633	428	10	7	461	197	47
世田谷区内	626	426 68.1%	10 1.6%	7 1.1%	458 73.2%	197 31.5%	47 7.5%
23区	6	2 33.3%			3 50.0%		
都内							
その他	1						
高校生世代	634	127	15	5	200	75	29
世田谷区内	131	55 42.0%	7 5.3%	2 1.5%	71 54.2%	33 25.2%	14 10.7%
23区	208	40 19.2%	6 2.9%	1 0.5%	53 25.5%	24 11.5%	10 4.8%
都内	232	27 11.6%	1 0.4%	2 0.9%	59 25.4%	13 5.6%	4 1.7%
その他	63	5 7.9%	1 1.6%		17 27.0%	5 7.9%	1 1.6%
大学生世代以降	15	6	8	7	7	4	4
世田谷区内	11	5 45.5%	5 45.5%	7 63.6%	6 54.5%	4 36.4%	4 36.4%
23区	4	1 25.0%	3 75.0%		1 25.0%		
都内							
その他							
合計	1282	561	33	19	668	276	80